



猿峠

音もなく 降り続く雪  
その中を一台の車が  
白いわだちを残して  
走り去ってゆく

北山杉はいつになく  
美しい  
ましてや  
白く薄化粧をした時は……  
私は杉林へ  
覆い込まれるように姿を消す  
毎年こうして  
限りなく白い雪の中で  
冬の山行が始まる



持越峠から真弓遠望

## 京都北山撮影紀行 ⑧

# さん や しょう よう 山野 逍遙

—— 北山杉雪景 ——

撮影 北川 裕久



北山杉（原建中の時）



# 季節の



白梅



紅梅

# 実景

撮影 武市通治

新春



冬枯れのエノコグサ (ネコジャラシ)



梅の実



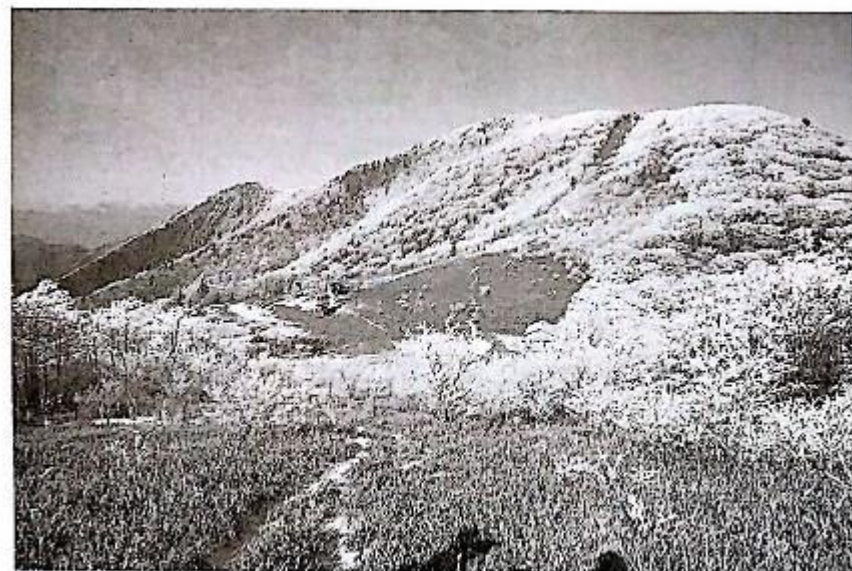
明神平から西岳を望む (台高)

編集室



明神平 (台高)

編集室



明神平から水鏡山を望む (台高)

編集室



明神平 (台高)

編集室

●目次

表紙：松田敏男「冬の甲斐駒ヶ岳」(南アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、東京都生まれ。京都市立芸術大学卒。  
 ●1973年より山岳雑誌、山岳道の編集多岐にわたる。(京都中央地区、南アルプス山小屋の星、山)  
 ●京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究員

新刊情報 別冊 関西の山  
 '93年1・2月新春8号

|               |           |                       |      |      |       |          |                       |             |       |           |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |
|---------------|-----------|-----------------------|------|------|-------|----------|-----------------------|-------------|-------|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| ●アウトドア・ライフ入門⑧ | ●「雪中ピバーク」 | ●文学歴史探訪ハイイク⑧ 高安城から信貴山 | ●コース | ●雨乞岳 | ●金北羅山 | ●高野山・女人道 | ●たのしい山歩き・尾瀬雑考⑧「木道の今昔」 | ●沿線ハイキングガイド | ●せせらぎ | ●サービステューン |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |
| 61            | 61        | 61                    | 61   | 61   | 61    | 61       | 61                    | 61          | 61    | 61        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |
| 新ハイキングクラブ     | バス時刻(比良)  | 松林後記・広苔案内             | 2名   | 良日   | 満     | 50       | 26                    | 58          | 56    | 54        | 52 | 46 | 43 | 36 | 31 | 28 | 23 | 20 | 16 | 13 | 12 | 11 | 10 | 4 | 2 |

●グラビア

京都北山撮形紀行⑧「北山杉並木」

随想「山のマセ」  
 随想「金剛羅山の石柱」を読んで  
 デ・レーケについて  
 雪山  
 三上山  
 三郎が岳・高城山  
 随想「日本登山紀行」木曾駒ヶ岳  
 立山三山縦走  
 堂浅岳中央ルンゼ  
 知多・寝美両半島の一等三角点  
 随想「遠征エッセイ」京都北山ほんまのはなし  
 第6話 淋しい御走の  
 白い風景  
 第7話 正月の山  
 京都北山・やぶ漕ぎ痛快山行記「七」  
 第8話 遅ればせのクリスマスツリー  
 第9話 ワサギの道案内  
 第10話 雪上歩行の新兵器

新しい年になりました。また新たな気持ちでこの一年を過ごしていきたいと存じます。本年も「新ハイキング倶楽部の山」をよろしくお願ひ申し上げます。

さて、この雑誌は、会員の方をはじめ、書店で求められた方も含めると、最近では2500人以上の方々に読まれています。山歩きを中心としたハイキングの趣味の雑誌ですから、読者の方々は日頃からよく歩かれています。この雑誌の内容の充実を考えますと、いかに多くの読者の方々が盛面背りに参加して頂けるかどうかで決まると思います。関西の山に無縁をあたえていますので、その広がりには一定の限界もあります。それだけに、より新鮮で、詳しく正確なものにしていく必要があります。関西周辺の山の情報なら、中央の雑誌に負けないものをもと考えています。

山行例会への参加、紀行文やコースガイド執筆への参加、写真提供への参加、また「随想」「せせらぎ」欄へ投稿への参加、最新の情報提供など、お一人ひとりに得意な分野を發揮して頂いて、この雑誌の誌面作りへの参加をお願いして半取の挨拶と致します。

新ハイキング倶楽部(代誌) 村田智博

# 自然を歩く仲間です。

## 決算バーゲン 1/15(金) 2/28(日)



長年の歴史や、冬山登山など厳しい条件の中(耐える機能を備えた)で、コアアウエアの中に入った保温素材シムラートが防水、防寒、透湿性を高めた。  
 センベル ドロフトパーカ  
 ¥34,000 → 総決算プライス

表裏材はコアアウエア。中綿は羽毛のふんわりある。保温素材シムラートを採用した。軽量・保温性の高いパーカ。トレッキングやハイキングなどにピッタリの1枚。  
 ラテラ アイスメアパーカ  
 ¥33,000 → 総決算プライス

ご来店の際、新ハイキングクラブ・メンバーズカードをご提示の方には、OD BOXメンバーズ価格でご提供!

\*この値、OD BOXには一足メーカーの登山ウェア、登山靴、ザックなどが豊富に、各様のニーズをお応えしております。

自然で暮らす。  
 衣食住  
 遊休  
 CAMP  
 OD BOX

### アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ究極生活」。自分の好きなことで自然とふれあふ。「登山」の楽しさを満喫して、もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんなハートを満たす、一年中アウトドアのお店です。

皆様来店でもお求めに合わせ、お電話でもお問い合わせください。(何卒 受け付け)

- 4F 自転車・トレーニングウェア・ランニング用品
- 3F デント・シュラフ・ザック・キャンプ用品
- 2F 登山靴・バッグ・玉石商品コーナー
- 1F 登山ウェア・アウトドアウェア
- B1 ダイビング用品・旅行カウンター



OD BOX大塚店  
 〒164 大塚市中央区西心斎橋2-10-34  
 TEL 06(212)5666  
 定休日/第3水曜日  
 営業時間/AM10:30-PM6:00  
 日・夜AM10:30-PM7:00



克



克

### 随想 (山のエッセイ)

断片に基づいた見解  
随想「金毘羅山の石柱」  
を読んで

網本 逸雄

最近「新ハイキング別冊関西の山」(鳥居の随想「金毘羅山の石柱」を添えて)を読んだ。内容はハングルの(朝鮮固有の文字)で刻まれたこの碑の存在を紹介した「あるハイキングの本」を批判されてきた。しかし、批判の確拠となる随筆子の碑文誤解に疑問をもった。

「記憶の読者には重複になるが、随筆子の要旨はこうである。「金毘羅山山頂近く」に「OHIT OHIT OHIT OHIT」の石柱。在日朝鮮人のKさんたちにハングルがどういう意味か問い合わせた。読み方は古代朝鮮語の表音で「アオノイナカヌスオオカイ」だが、「不明」との返事。調査をしたら、琴平宮の信書が

ハングルをアミノミナカヌシノカミ(天御中主神)という神の名に当てはめて「アオノイナカヌスオオカイ」というハングルの文字を刻んだのが真相らしい。

あるハイキングの本を立ち読みしたら、「アミノミナカヌシと読む」と説明してあった。それは朝鮮の人に失礼でないか?

漢字が読み取りにくいのが、ハングルでアミノミナカヌシと読めないのに、読めるというのは失礼ではないかということである。

私の疑問というのは、随筆子が批判の根拠としてあげた碑文は実際の碑文とまったく違うのである。

添付の写真(次頁左下)は金毘羅山の碑文である。原文は「OHIT OHIT OHIT OHIT」である。反切表を使つて判読すると「アオノミナカヌシオオカイ」となる。反切表とはハングルの子音と母音の組合せ表で、音韻表とかハングル表ともいう。ただし、原文中で「口」「口」

「口」の文字はハングルにはない。「口」「口」であれば、「ノ」「メ」「オ」と読める。おそらく碑の建立者が「口」「口」「口」の改遣文字を作つて、刻みこみ易いようにしたのでないかと思われよう。

だから「アミノミナカヌシオオカイ」と読むのは、暗解の解き方のように解読できる。それが天御中主神のことではないかと推察したヒントがある。

金毘羅山は、明治時代までは江文山といわれ、江戸時代の「山川名勝志」明治時代の「愛宕郡誌」に山頂の三靈大神(龍靈・風靈・火靈)が面白いに書かれていると紹介されている。

山そのものが神体で、大原各村の産土神である旧村社「江文神社」はその里社といわれる。祭神は倉稲魂神(倉魂)の神。だが、もとは江文大明神を祀つたと伝え、「山城名勝志」では大明神は「天三靈靈命(化神)」という。つまり三靈大神を指すとみられ、「京都市の地名」(平凡社)で、天御中主神、高

宗廟遺構、神皇正統記の造化三神のことだといふ。

また山頂の祭宇古は、遺跡に流され消滅した天照天皇、天照と関係の深い金毘羅大御現(天國主命)を祀る。近世に大流行した金毘羅さんは、水神、火神(雷)、風神の性格をもつ。(寺屋殿編、金毘羅信仰、雄山閣)

一つの山に二つの神社が存在するが、「愛宕郡誌」では、江文社は大原村、琴平社は野田野村の神社の頂で祀成され、それぞれ別々の村人の信仰対象だったようだ。

そしてハングルの近くに、これらの神々を合祀したような石碑があり、「天御中主命」、「大國主

之命」、「豊玉大神」の三注が随筆子で刻まれている。

さて、随筆子の写した文と原文を並べてみると、両者の違いがよく分かる。

(原文)「OHIT OHIT OHIT OHIT」  
(写し文)「OHIT OHIT OHIT OHIT」

まず、原文の十二文字と比較して随筆子の文は一字欠けている。

子音「口」(m)と子音「口」(n)を混同している。「口」を「口」に写し間違えている。合致しているのは「口」「口」二文字分、「口」の四文字分だけである。しかも「口」



金毘羅山の石柱

のような子音同士の合成文字はハングルにない。私のようにハングルを知らなくても、文字の形状からだけでは写し間違いは判別できなく、これだけ読解すれば、当然誤解も生じてくる。誤りの屋上屋を深きこととなる。

なお、ハングルは十五世紀に成立した文字で、李朝第四代の世宗によって制定された。だから古代朝鮮語ではない。それ以前は、朝鮮半島の言葉の表音は中国式表音記法だった。(朝鮮半島歴史学、古代朝鮮語で日本の古典は読めるか)大相書

随想 随想は断片に基づいた見解を述べておられるのである。随筆子と手紙のやりとりを四回行い、最終的に随想は認められた。そのなかで「新ハイキング」社が「口」を「口」に誤植したこと、随筆子が一字欠けた十一文字をKさん達に見せられたことも分かった。同氏は最後まで、写し文を私に直接送られなかったが、誤解は解いていただけたと思つている。



随想 (山のエッセイ)

デ・レーケについて

内田 嘉弘

飛鳥、奈良、平安時代に、都の建設のため木津川周辺の緑豊かな山の本々が伐採され、あるいは、無類ではげ山となった。以後、大雨のたびに洪水や土砂の流出で下流の人家、田畑に被害が出た。江戸時代に入って寛文六年(1766)に「山川擬之令」が出され、深木の禁止、苗を植えること、焼畑をしないことを決め、土砂奉行をおいて取り締まりと石垣留、築堤、杭樁、雄木苗込等素朴な土砂防止めをやっていった。しかし、幕末の頃は、見回りや砂防工事の形式的になってしまい効果は上がらなかった。

明治時代になって近代土木技術導入のために、当時河川土木工事の先進国オランダの技術者を日本に招いた。その中にヨハネス・デ・レーケがいた。彼は明治七年木津川支流不動川(京都府山崎町の三上山)の麓で石えん炭、土えん炭、石工匠面等16種もの砂防工事の高築施工を経て明治十一年「元山小浜」の実地ノ状況ニ寄リ、或ハ粘土等ニテ履成ラ築キ、石製堤築シテ補工、並ニ小石敷交セ、能ク築キ固メ飯ハバ、腹奥ハ破壊ラナサズ、流砂コレニテ止ス、其ノ裏詰ノ扇河ニ苗木ヲ植込ミ置キ、自ラ元ハ青山ニ化シ候旨、申シ聞カシ候」とデ・レーケ工法を指導した。これが不動川の植木大塚場として残っており、昭和二十八年の南山球大木害にも耐えたという。湖南アルプスの上桐生にあるオランダ塚場もデ・レーケの指導で造られている。

デ・レーケは約30年間、日本に滞在し明治三十四年(1901)に帰国した。その間、明治二十四年(1891)8月16日、常願寺川等の調査に必要なため立山に登っている。その折に、彼の旅ヤコバ・ヨハンナ・デ・レーケ(1858)も連れて登營泊まって登った。立山に登った最初の女性に彼女だと云われている。

雪山

弦秀

アフローチ  
夢心巻  
雪のトレス  
十五キロ

洞窟に  
水柱刺さりて  
すずり泣く

登屋  
とどろきし  
吹雪にぬれる大舞の  
ねむる顔にも  
雪ふりかかり

登頂  
雪音く  
雷轟れゆく  
登るれば  
槍塔雲巻 頂白し

純原の  
風凜ましき

池澤洞窟 (吉田 恒秀)

近江富士と愛称される  
三上山

日本昔話、わかしむかしの物語(むかで山伝説)。今は昔、藤太(藤原秀雄)という武勇で全土に愛称がいました。ある日のこと、額田の層雲を渡ろうとすると、大蛇が真ん中に横たわっており、藤太は恐れもせず大蛇の背中をふんで通り過ぎてゆきました。

その後、藤太の宿に見知らぬ女性が訪れて「私は、額田の層雲でお目にかかった大蛇でございませう。近頃、大きなむかでが三上山に住みついて村人を困らせています。どうかあの憎いむかで、を退治して下さい」と頼みました。快く引き受けた藤太は、さっそく、むかで退治に出かけました。

湖南三上山に雷鳴がとどろき、大きなむかでが現われました。一本、二本と矢を射

遊津米男

湖南

かけるのですが、むかではビクともしません。残る最後の矢に唾をかけ、雷剛を狙って射かけると、みごと急所に命中、矢は左目から咽喉を貫いて、むかでは息絶えてしまいました。この思ろしいむかで、は、三上山を十巻き半も取り巻く大きなものでした。

その後、藤太の宿に再び女性が現われ、お礼に沢山の宝物を贈りました。その中には、いつまでも米が出続ける米俵がありました。

藤太のむかで退治の後、近江の国は平穏を日々が続き、野洲野はおいしい米の産地として栄えました。村人は、三上山を見るたびに藤太の武勇伝を思い出し、感謝の日々を過ごしたということです。

昨日は寒治前線が吹き荒れ、全面の主要高



森林センターから望む三上山

湖沿路ではいたるところで天突き事故が起きている。一夜明けると今朝は快晴の冬空が広がって、久しぶりのハイキング日和になった。

JR野洲駅前より東山回りの近江バスで、一膳指野ヶ丘公園、西ゲート前へ向かう。車窓から野洲町を見るかぎり、昔の田舎町ではなく、近代企業への招致で見違えるように発展し、活気ある町に変身しているのに驚く。8号線から指野ヶ丘公園内に入る。ここは面積



御上神社

を下つてゆくと、小広場に飛び出し「妙見殿跡」に降り、また午後2時頃なのでここで長い休憩をとる。重い腰をあげて「妙見殿跡」を出発する。間もなく兵家、田舎家が見えてきた。ここから立派な石段を下り登山口に至る。巨匠が数回横たわり、案内板には「魚釣岩」とある。大貫、古生院生林の時代には、森田湖の水がこの辺りまで来ていたと記されている。その上には「南無妙法蓮華經」と

刻まれた立派な石碑を見る。おそらく先程の「妙見殿」の跡地であろう。  
 田道を歩いて、角を回って湯治の湯を横断し、こんもりとした森に囲まれた荘厳な栗田原の御上神社に向かう。社殿は歴史と重文指定を兼ねていて素晴らしいので、是非立ち寄りたいたいと思っていた。境内に入って、御手洗の清水をいたたく。感温堂々の社殿は一見の価値がある。御上神社の神体山が三上山であるが歴史は1200年になるそうで、国史の本殿、重文の拝殿、横溝、若狭社などは鎌倉時代のもので、境内の菩提広葉樹林は檀越の対象として保護されていて、菩提樹が十尺、海苔社に数株であったことを示しているそうである。

参拝後、御上神社を退出して、漣ながら麓しき三上山を登りながら、野洲の町中を歩いて「良野神社」に出た。暖かな冬、日だまりハイクの楽しい一日でした。

（平成14年10月10日）

三上山への登山道は少しも手探りも必要が

多く、雪の時は大変すべりやすいので、

登山はさけて下さい。

（冬期タイム）

「良野神社」・05坪（六）・神皇ヶ丘公園西

登山に必要なものは、  
 国産・舶来  
 すべて揃っています。

足にピッタリ/  
 登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入  
 ☎ ☎ 211-5768  
 ☎ ☎ 211-0318

山とスキーの専門店  
**京都 ムラカミ**

ゲート9・20「森林センター」公園9・35「希望ヶ丘公園」展望台10・00「登山口」13・30「五合目」10・50「八合目」11・20「三上山」頂上11・30「13・00」頂上13・20「妙見堂跡」13・35「14・30」表参道登山口14・40「御上神社」14・50「15・05」「良野神社」15・40  
 《地形図》2万5千「近江八幡」  
 《問い合わせ》  
 京都府立野洲高等学校  
 野洲町観光協会  
 0775(8) 4411  
 0775(8) 1121



4288の大自然公園に整備され、キャンプが楽しめる野外活動ゾーン、各種競技場が完備したスポーツゾーン、研修設備が整った文化ゾーンがある。  
 バスを降り、登山口である「森林センターゾーン」へ向けて冬の静かな日の中をゆく。  
 「森林センターゾーン」にはワッディルームや大きな観葉植物もあり、至りつくせりの旅費に飽きず、この大自然公園から展望する三上山(4288)は、雄姿の富士山そのもので、まさに「近江富士」と呼ぶにふさわ

しい美しい姿を我々を迎えてくれる。このせいでひととき休憩し、回復中。  
 公園山頂にあるスマート展望台をめざして峠を越え、道標に「小鳥の道」と名づけた遊歩道に沿って、緩やかな木の階段を登る。展望台からの眺めは、右側に三上山がそびえ、正面には希望ヶ丘公園が一望できる。広大な公園施設は、雑木林帯の遊歩道には、細かな指路標がきれいに設置されている。深うことな三上山の山頂へたどり着くことができる。やがて雑木林帯の山頂を南にトラバースすると、所どころフシヤや倒木があるが、高巻き道で山道を失うことなく前進する。眼下には希望ヶ丘公園からの登山道と古い黒根の休憩小屋が見える。振り返ると先程の赤い屋根の展望台をはるか下方に望む。ほどなく希望ヶ丘文化公園からの登山道と合流する。大きな道標があつて「山頂まで450m」とある。いよいよここから深い雑木林帯の中、木の階段の直登が始まる。ゆるゆる一歩一歩進むようにして登る。15分ほどで五合目付近に到着して小休する。展望すると途に疲れるので、即出発し、玉上ぎをして聞き時を登る。又々15分ほど登って駒楽八丁の八合目地点で一息入れる。後は一気に急登して山頂の一角「雄山」に着いた。

山頂には鳥居があり、御上神社遺跡を祀った祠がある。頂上にある磐石は「妙見殿跡」と呼ばれ、神宿る磐石といわれている。この昔の上からの展望は坂道に滑り落ちて、眼下の展望はもうみんなのこと、真っ白い衣を纏った比良連峰に比良山の山並み、近江平野を眺めると東海新幹線、名神高速道路、首都圏のような新洲川と、パノラマの展望は驚かすことがない。展望を堪能して一旦雄山に降り、ここから下山する。  
 下山は樹林の向こうに見える「雄山」(三上山は双耳峰である)を迂回せず、急坂の表参道を下る。神宿る神々の祠から岩が露出した急坂に入り、スリッパしやすく注意して下山する。最近取り付かれたのか、木を鉄の手摺がある。地元の人達の親切な心づかいに感謝する。急坂の途中、松林の中に大きな「洞窟」がある。幅8m(4m)高さ10m、高さ5m、奥行き30mの、どこか神秘的だ。中心が割れていて「暗内くぐり」がやまると、全覆りネットを置いて幅5mの道を、横道いで前進する。まず入る前に「今日日は」と声をかけ、出るときは「オキヤ、オキヤ」と連呼して、銀ごしがみついで元の場所に出る。全員が胎児に戻った気分を余興を楽しむ。  
 「二の瓶」展望台を左に見送って、急坂

伊勢参宮本街道から

# 三郎が岳・高城山

室生

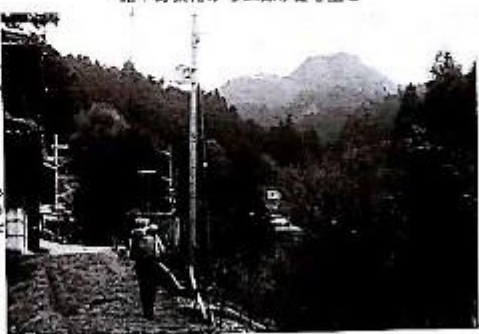
阪本健治

平成5年は伊勢神宮遷宮の年である。この遷宮に因んで伊勢街道を歩くなどいろいろな企画が盛んであるが、お正月初登りに伊勢本街道から室生の旅費、三郎が岳と日本書紀の神武記に登場する天来歌の「高城山の高城山」の伝承の地と言われる高城山を結んで歩いてきた。

お伊勢さんの本街道を行く  
名古屋を出た近鉄特急の車窓から真つ赤な大きな太陽が昇り、鈴鹿山地の白い山波が輝く。今日の天気を約束してくれるようだ。  
名張で各駅立止りに乗り換え宇陀の国の一角、椋原に降りた。1月の冷気が暖房に暖んだ皮膚を引き締めてくれる。駅前広場から

上内坂行きのバスは宇陀川を渡って、神武神社にある墨坂の攻防ゆかりの墨坂神社の参道を右に見て伊勢街道を走り高井に到着。下車する。ここへ降りたのは私達夫婦だけ、というのも今日は正月の2日、好んで出歩く人が少ないのは当然、今日も静かな山歩きが約束されているようだ。  
バス停の傍らに「右いせみち 左むろお」という天明元年(1781)に立てられた古い道しるべと仏坐守入口の石塔がある。頭矢橋を渡るとY字路、再び古い道標「左いせみち」に導かれ伊勢本街道に入る。日本国総領守とされたお伊勢さん、伊勢宿御がおこりすべとの道はローマに」の例えに似て伊勢宿の道が伊勢街道、東宮野から杉谷宿を経ての

高木野集落から三郎が岳を望む



高木野集落から三郎が岳を望む  
高木野から高城山(高城山)を北街道として初瀬、椋原、室生、山田、山田(田)峠、高野、奥津を通って御坂を中街道といひ、これを伊勢本街道(赤羽宿までという)とす。といった。江戸の中頃までは本街道が、それ以後は北街道が振ったという。

ここに三に往時の面影

さて本街道の入り口、割れ道の右手、かつて旅籠をやっていたという家の軒下に「室生山田」の大きな扁額が掲げられている。

長年風雨にさらされたため文字がなら判読が難しいが、山岳寺院の尼国図をそうである。室町、江戸時代の跋入で振った街道の往時の面影を留めているもの一つである。

爪元上りの道を進むと、あづまやがあつてさすが本街道に近いだけであつて、三千年物丸太の横かけにテーブルがあつた。眼下には先ほど分かれたバス道353号線が望まれる。10分ほどで大きな千木林、カンカン石はうっかりして目立ちました。新しい立派な舗装道路と合して聞かされた香あいに人家が散在するのかな赤屋敷がある。赤屋とは焼酎の付焼、赤土採取の地だといふ。

ここは室生所屬に「一徳の宇陀の真赤土のき丹着かばそこもか人の舌をまよなされむ」という万葉の歌謡が建っていたが、残念ながら読めないのでよくわからない。

さて本街道は集会所の手前を下るよう道標があるが、これは集会所の舟を右に曲がる時木野への新道に直ぐ合むさ。小さな切り道しるを越えたと平地内、大久保集落である。右に下る道を行って道標に従い直進「これより三里、西回〇」の古い道標があつた。昔の

人はこういつた道しるべでぼつとしたことだらう。

ほどなく舗装道路から一転して深い道になった。これが今も残る本街道である。だがこの深い道もわずかで再び集落の酒蔵、高木野に入る。ここで正面に形のよい三郎が岳が望まれ、集落の中心に高城山への道標がある。これは小峠をへて仏坐守へ通じる道でもある。どこか北条もひっそり、初瀬での疲れが物音ひとつしない静けさ、街道最大の集落を渡り、赤土採取のところで再び高木野川を右に渡り返すと六助明三。そして宇陀の辻である。これとは別に今の椋原市藤原寺にある宇陀、三輪、藤原の三叉路が宇陀ヶ辻といわれている。

ここには昔ひす南無阿彌陀仏の石碑が旅人を慰ますかのようにたてられていた。このあたりには内宮大野へ下る道があつたが見当たらない。本街道の使途を尋ねた今、藤原になつたのだろうか。

二、三日前に降つたのが雪が現われはじめた。深いスギの植林帯に入ると薄暗くなり、昔むした石塔が左手奥に見えた。往時築えた酒の店跡が石塔形にあると聞くが、ここが静かだろうか。地形的に見て峠の少し手前から、ここを先で道は急な小道になり室生氏、

## ビギナー入門

アイゼンをはく

冬の山歩きを安全に楽しむために必要な道具のひとつにアイゼンがあります。アイゼンバンドで登山靴にしっかりと固定して雪の道を歩くのに使います。これをつけると凍った雪道や斜面を滑らずに平気で登降できます。調節などは靴に雪紐をしばりつけて歩いていますが、ハイカーともなればアイゼンをつけてさっそうと冬の山を歩きたいものです。  
ビギナーの人でまだ持っていない人は早速登山用品店でひと買っておきましょう。爪の本数は、4本、6本、8本、10本、12本、14本、16本などありますが、一般的には8本、14本くらいのものがよいでしょう。4本のはフランスがとくに多くついたり、雪が付着して歩きにくい欠点があります。自分の山の行形態などを検討して、係の人に選んでもらいましょう。使ひ方も教えてください。  
アイゼンをつける上初めは内側の爪をスパツクに引っかけたりしますが慣れれば大丈夫です。バンドをあまり強く締めすぎると足の血行に影響しますので注意しましょう。これら冬の山歩きも楽しくなります。



三郎が長分岐の小さな道標の立つ丁字路に出た。先程の小道いところは軒下の茶店跡かもしれない。

### 土二橋茶店跡の地

地蔵を降れてからはスギやヒノキのうす暗い雑林の間の道だったので、少しでも早く眺めのよい尾根に出たいと思ひ躊躇すること



三郎が岳・高城山付近略図

なく右側山明國寺から登る予定を変更、三郎が岳への上に入った。  
 雑林の中の比較的新しい道で、いままで知らなかった大きな本街道と違つて急だ。20分ほどで石割山明國寺の奥の院に達する。三郎が寺跡所、奥の院上寄りに養徳院、明國寺本堂と石割の基岩に下る道を行く。  
 この石割という落着(丹は石段と書いた)は南北朝争いの頃、旧南朝方の守護国司の北畠氏に反乱の兆しありとて、動乱の再発を恐れた足利義満が太田能登に乗り出した。明永22年(1415)、北畠能登討つ言が差せられ、これに對して南朝方宇陀三入衆の秋山、沢氏らによつて土二橋が知り、迫り軍の食料などを奪ひ追い返した。このケリラ戦の主力は本街道の馬場で、土民の団結組織「土二橋」といふ組織が見えたのは全国で初めてだったといふ。

話がそれたついでに今一つ、明和9年(1772) 本居貞長の「菅笠日記」に養徳院の南で松阪に知るコースについて従者と通じる件があり、「道を覚えてまた見え赤羽根越えしよう」との古民謡、従者「あなれろしやかの道はずべて険しい山ばかり」と反對している。考えてみれば近連のには一番道かいが養徳院から伊勢津津まで、低いとはいへ五六つの峠を越

えるわけで、従者が逃げるのは当たり前である。山ろくくなった尾根を直登すると頭上の岩壁に、日蓮上人座像と南無妙法蓮華經の文字が彫られていた。

### 狭い山頂

昔も山頂に少しあるだけで登るに差し支えなく、足弱な家内もひと安心であった。急登20分で余り広くない？等点8799の三郎が岳頂上に着いた。眺めは雑林がちよつと邪魔だが北に大和野土の横井岳、東に宝生火山群の御嶽山、西尾山、その背後になつかしの御留山も覗く。南には高尾山、赤雲を頂いた大峰山、台風の山渡、西に思い出の音羽、音門の山々、そして高城山も視野に入る。低い山とはいへし、すぐ遠くなり早々に下る。

狭い山頂から北へ高尾山、唐戸山、宝生峰への薄い踏み跡がある。宝生峰への薄い踏み跡には食糧が動くが今日は高城山に向かう。西に向かつて滝木とササの急下降で小鞍部になると、左に諸木野への分岐がある。露岩のピークを越え右に観音谷(五面)へ山道が分かれる。この辺りから左へ廻り込むように登つて大きな下りから左へ廻り込むように登つて

行くと、高城山に小段道が見えてくる。ツゲや赤マツなどが目立つようになり、ほごごく小段道の休み場と北の外れに珪さ替えたばかりの新しい銅板屋根の小さな茶店が建つていた。ここは日本書紀の神武記に登場する来來歌の「高城山の高城に銅板屋根」の伝承地とされているが、そのことに関するものは何もない。

三郎が岳では見えなかつた鳥見「鳥見平」



高城山頂から曾根の山々

山頂が岳が目の前に、そして大和野の山々が一望である。

休んでいてもすぐ寒くなるので早々に下り始める。最初は急下降、スギ、ヒノキの植林と雑木林の道である。尾根を急峻に辿り丁字路のところまで、左手の墓塚に向かって右に折れ、墓塚の背後を急下りして行くと林道に飛び出す。この道は、本街道の赤羽根道ができる以前の古い伊勢街道だ。左に廻れば今朝、諸木野で分かれた道標高城山の道に辿り着く。

### 地蔵さんと一緒に登茶の時間

右へ仏隆寺に向かう。池のところから左へ近道が分かれるが、滑りそうなので左へ林道を行くことにした。30分程で地蔵の辻、あずまやの中に柔和なお顔で地蔵尊が立つておられた。八角堂のような開放されたお堂で、回りは濡れ紙状のベンチ。お正月のごとくラジウウスで湯嚢を沸かしお茶を一眼瓶で

頂上、古びた石段の上には女人僧野といわれる室生寺の南の大門の仏隆寺。ちよつとしたお城のようにそびえ立っている。石段の途中に「奈良で一番広くて大きい」と説明されているサクラがあった。境内には弘法大師が

中国から持ち帰った種を播いた、日本で最初のお茶、大和茶の発祥の地を示す大きな石碑が建てられていた。  
 この仏隆寺で今日初めてひとりのハイカーに会った。それはと静かな山であった。  
 室生野を下つて再び高尾山に出て、この日は奈良に泊まり、翌日は新島、松尾山から矢野丘陵を歩いて正月の初登りを終えた。  
 平成4年1月7日歩く

### 参考タイム

- 機原8・40―高井8・57―9・05―赤壇子木杉9・15―大久保9・50―諸木野・高城山分岐10・10―水道筋10・27―宝生村分岐石割峠手前10・50―11・05―奥の院11・25―35―三郎が岳11・55―12・10―諸木野分岐12・25―高城山13・00―20―尾尾13・35―林道13・40―地蔵の辻14・00―40―高井15・00―25―機原15・40

地形図 5万1枚井・高尾山・名張 20万1和歌山・伊勢



# 木曾駒ヶ岳

2956m

浅野孝一

この山は木曾山系にあるので木曾駒ヶ岳と言われ、阿アルプスにある駒ヶ岳に対して、東駒ヶ岳とも呼ばれている。山頂には駒ヶ岳神社が祀られている。

木曾上松町にある駒ヶ岳神社の「駒ヶ岳由来配」には「今を去る千二百餘年即ち入皇十二代皇行天皇の御子に當りて皇子日本武尊東海津渡より還り給ふ時此嶽の風景を愛し遂に登山し給ひて稻倉魂命又の御名保食命又尊受命命とも稱る則人々の衣食住及農畜牛馬を守護し給ふ御神なり。其後天武元年七月に至り徳徳天皇天皇天皇保食大神の社を創建し本社を駒ヶ岳の巔なる徳徳に遷せしより遂に此里の産土神として崇め奉りしが天武元年八月一日國守聖德太子位藤原藤原郷の代理として

木曾御材木原長山田貫一郎登山として本社を再建す此月西京香紙伯耆親王奉幣し駒ヶ岳大神宮と齋祭」と記している。

明治42年(1899) 8月、W・ウェストンが上松口から登山し、この山への近代登山の春が切つて落された。岡村精一訳「日本アルプス」登山と探險で「山腰をもう少し登ると、天崖に突出する岩に建てられた青銅の像があるが、これは遊礼登山者として駒ヶ岳へ最初に登つた神明靈神を祀るものである。それからなほも進むと、岩の一段に達し、その険しい面を眺めると、絶頂の崖に來た。此處で私達は、スイスの山で見たあの見慣れたクラブ小屋を覚わせる建物を見つけた。」と記している。

千畳敷カールから見た宝剣岳



又大正二年(1913) 8月伊那平の土質尋母小学校の生徒が駒ヶ岳に登山し、寄葉頭付近にて赤羽長重校長以下11名が御座した。小説ではあるが、新田次郎著「聖職の魂」に詳しく描かれている。

「日本山誌」は木曾山系の項でこの名山を解説する。即ち「駒ヶ岳、信濃國上伊那郡西氣原ノ二郡に跨ル、上伊那郡宮田村ヨリ西里十八町、西氣原郡駒田村大空上松ヨリ四里八

町ニシテ其山頂ニ進入、樹高九千五百四尺」とある。

山名等に關して「木曾駒ヶ岳所屬會は、「駒ヶ岳(木曾駒ヶ岳)なり。其高峯平樹、叢生連綿して、其一峯の山頂に石あり。形は扇のごとし」といふ(或記に云、此の山に神居あり。三季物産下、天正の頃、織田右兵衛、三州を征伐して、軍をめぐらし、道程に對つて、われ聞

けり、信濃駒ヶ岳に、四百年來に及ぶ昔馬あり。舊日本紀に云、天武十年八月、信濃國に神馬一匹、其身白形、云々、斯の如く旧記あれば、明年、蒲原に草平を獲て、駒ヶ岳を閉んでこれを狩獵せしと思ふ。……此山に三峯あり。三つの内、第一に高きを大嶽といふ。極めて大山なり。……と記している。又「信濃奇勝録」に「……又山東の方に



木曾駒ヶ岳付近略図

の形したる大岩あるを以て號るともいひ、又雪の消んとする時、駒の形一徹を露して見ゆるを以て號るともいひ、又此駒形の南の方に種草とて、四月の頃笠を被、柄杓を持ちたる形、遠方より駒とひとしく見ゆる、此形現るを大豆を磨の時節と云ふらばせり……」と種々の文獻に記されている。(内閣註)

木曾駒ヶ岳への登山道は現在伊那郡の駒ヶ岳市からバス、ロープウェイを利用して山頂駅へ行く。ロープウェイの山頂駅から約2時間強で駒ヶ岳山頂に達することができる。冬期には宝剣山荘に一泊して夜明けの山岳風景を写す人が多いが、ホテル千畳敷に泊まってから山頂を往復する人も多い。出来れば木曾谷から登って伊那平へ下つてみたいものだ。伊那方面からの登山コースを説明する。飯田駒ヶ岳根原前から、しらび平行きのバスに乗る。しらび平からはロープウェイで一気に2611mの山頂駅に到着。そこは千畳敷カールの一端でホテル千畳敷がある。登山道はカールの左の山よりつけられた夏道をたどる。雪のある時は出発前にアイゼンをかけた方が歩きやすい。登山道は岩の上を歩くので慎重に行動したい。浄土堂越からゆるい稜線上となり視界が広がる。標高を左へ進むと宝



木曾駒ヶ岳山頂方向盤と山頂神社

剣山荘、天狗荘がある。駒ヶ岳へは主峰線を右へ、広い斜面を登って中岳へ達する。前方に駒ヶ岳を見ながら、いったん下ってから駒ヶ岳山頂に登ってゆく。この一番はガスの日には迷う心配がある。晴れていれば左手に木曾御岳山、前方に北アルプスの山々、右手に南アルプス、八方岳、浅間山等が見える。尾路は往路をもとる。浄土乗越から千本峠への下りは、登山道の雪の下に隠れている蛇

籠の針にアイゼンのツアックを引っかけめよう。に注意が必要だ。又、千本峠から宝剣寺登山のコースもあるが、冬期は岩場に氷雪が付着しザイルなしでは無理であり、相当の登山技術が必要なので近づかないようにしたい。冬期の山頂付近の山小屋内の寒気は想像を絶するものがある。暖かいホテル千本峠から山頂往復をおすすめしたい。一般の登山者は千本峠カールでの散策を楽しんで下山するのが良いだろう。

△参考タイムV約ヶ根駅→しらび平→山頂駅・ホテル千本峠：55→浄土乗越10・50→10・55→木曾駒ヶ岳11・40→12・15→山頂駅13・50→しらび平→駒ヶ根駅  
 (地形図) 2万5千→木曾駒ヶ岳  
 ◎このタイムは無定期のもので、積雪時は50%プラスと考えた方が良い。天候・ハイケイによって若干違いがある。

**小説**

新ハイキング案内では、昭文社の「山と高原地図」(エアリアマップ)のモニターをすることになりました。より正確な登山地図とコース標記の発行をお願いするために、関西地区を中心に、新しい情報などありましたら、としばしばお寄せ下さい。

# 立山三山縦走

登山紀行を読んで

出発の日、9月24日は快晴だった。気の合った三人、汽車の中では立山への期待で話もはずむ。「新ハイキング案内」初版(6号)の登山紀行を読んで立山への山旅を計画した。立山駅から美女平までケーブルに乗る。そこから高原バスに揺られて天狗平へ。車窓を過ぎる山の景色は美しいの一言に尽きる。トチ、ホウ、ブナ、立山杉の大本木が無数に並ぶ原生林を過ぎる。伝説を秘めた木もあるらしい。可憐なツシマ笹が風にそよんでいる。大日岳など立山連峰の姿は圧巻だ。今まで見た山々の姿と全然違う。酒田に訪れる野沢ヶ原は、色合い豊かな織姫の世界。緑の濃淡、黄、淡紅、その中に混じる灰色と様々な色が縦に斜めにと走っていて、秋本番そのものの

## 岩田 喜久子

北アルプス

感がする。その夜は天狗平山荘に泊まる。植野女史がテレビで自決した宿である。楽しい温泉な宿、食事も品数多く良い、親友がこれまた良い。

9月25日、黒が強く山にはガスがかかっていた。台風19号のため登山は無理とのこと、とりあえず宝剣寺まで行く。登山案内所でも入山禁止を申し渡された。一日予定が狂うが仕方なし。この日一日、どうもそうかと三人相談の結果、黒部ダムに行くことになる。以前、黒部の下の麓を歩いた時には、ダム見物をする余裕がなかったので、これでよしと、見物を終る準備さし再び宝剣寺に戻る。

立山地獄谷



午後はどうしようも、と又々相談の結果、みくりが池、黒部谷、地獄谷、大谷を過って天狗平へ戻ろう。それにしても風が強い。重いリュックがココロを舞う。地獄谷は黒煙を巻く煙霧。天候のせいも知らず、地獄谷の二丁目とはこんな所だろうか。植野女史が風に倒された。私達は強風が来ると陣りこんで風の通り過ぎるのを待った。

地域に合った品揃えを目指しています。

三重県唯一のプロショップ

登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。

登山・スキー・アウトドア

**GRINDELWALD**

**グリンデルワルト**

営業時間 AM10:30~PM8:00 毎週月曜日定休

三重県四日市市諏訪町13-3 TEL 0593-54-0527

それでもなお歩こうとするのは、無鉄砲と言おうか、密か知らずと言おうか。

バス道に出ると状況はますますひどくなつた。メガネが飛ばされそうになる。ふと気がつくと、横断、横谷両女史の姿がない。あたりを見まわすと、いたいた、風を避けて深い窟の中を歩いて来る。これは良い思いつきだったが、洞から出るのが又一苦勞。やつとの思いで天狗平山荘に飛び込んだ。夜、雷が鳴った。山荘の親父は雷になると言う。やれやれ、強風の次は雷、立山登山は幻に終わるのだろうか。

明けて9月26日、全山霜に覆われていた。



小雨も降っている。鎌倉子孫。だがしかし、山小屋の親父は「登れる」と言ふ。嬉しい、気がついて登ろうと二人で登る。

8時10分、寒風から一の越へ向かう。楽しみにしていた。雪道にも出会えた。一の越から峰山頂上を歩出す。

このあたり、立山噴火の産物、大きな岩がゴロゴロ、横谷もゴロゴロ。乗りこえ、右に避け、左に回りこみ、岩から岩へ降りついて高度を稼ぐ。しんどいのも苦しいのも降りこして洞の中はカラッポ、何層見上げても岩の重なりばかり。ガスで視界はゼロ、小雨は降り降っている。軍手は濡れるし、メガネはくもり用をさきぬ。

10時48分、頂上に着く。標高3073.3m、境界ゼロ。本道に登れたねと労をねぎらい合う。山小屋で作ってもらった弁当を食べ、11時半、頂上山荘までお飯いを受け取る。

お飯が始まった時、突然、木道に突然、霧が降れた。道が下界とあたりの山々が目に飛び込んできた。突然として、ハッとしてカメラに手をかけた次の瞬間、又してもガスで真っ白け。何ということか。しかし、目には寶石のような景色が残っていた。台風で一日曇ったし、縦走はやめて下山しようと言ったが、横谷女史が「あの岩だらけ

登へ、そこまできるとかた土産物を買って、又々相談。

京都への直通列車は立山駅17時30分までなから、時間が余る。この時間をどう使おうか。日本一の「称名池」へでも行くか、と決める。落着きで、右側には温泉の湯もある。湯に、三人並んで、はかんと口を開けて、滝原から流つてきて眺める。しよさが顔にかかると、ついには「蒸気の壁」も見ると、こちらは何となく気が悪い。

船りの汽車に無事乗り込む。三四日の立山縦走、来て良かった。一時は断念しかけた雄山の頂上にも立てた。怪我もせず、三人共あまり元気があつているとは思えないが、無事に帰れた。苦しく不安だった一の越から雄山、剣淵前小屋までの尾根道も、今では我が



立山を望む

今日は下山して帰るだけ、ゆつくり宿を出て、紅葉色を写真に撮る。



称名池

の下りだけはどうしても弱たしと願をしかめる。彼女は登りは強いが下りに弱い。又三人で相談し、一日予定を遅けて帰走と決まった。

12時、大汝山に向かって出発。雨とガスのため縦走は少ない。12時48分、大汝山(3015.5m)に着く。13時10分、富士の折立着(3045分、真砂崎)。相変らずガスは深い。右に印された黄色のペンキだけが頼りだ。

別山薬屋から剣淵前小屋へ下る道しるべがない。どうしよう、横谷女史と探したが判らない。「薬屋」を出せば横谷女史が心配する。とりあえず、あれらしいと思われものを目標に定めて下る。しかし目印は届かない。

尻根に落ちるかと思ひ、引き返し始めたところ、20人衆のパーティが下りて来た。大西で道を尋ねると、この道で正しかった。やれやれである。このパーティは尾根道から来ているワンゲルで、このあたり道連れになった。

15時10分、剣淵前小屋着。1000円払ってトインを拝見。遅くなったのでここに泊まるうかと思ったが、ワンゲルのリーダー氏が、「明日は雪になるかもしれない。このまま天狗平へ下りたほうが良い、我々と一緒に下りて」とよ言ってくれたので、又道連れに立つてもらう。

しく、楽しく、苦しかったことは心の中にしまいこもう。そして写真と共に時々取り出して楽しむことにしよう。

さて、次はどこに登ろうか、と思いは早くも次の山へ。熱くない面々だ。横谷女史、横谷女史、又行こうな。へあがりかどう?

平成4年9月24日、27日歩

▲登山タイム▼

- 9月24日 京都駅7:33 立山11:30 天狗平山荘15:30
  - 9月25日 天狗平山荘8:00 横谷山荘10:00 横谷山荘12:10 天狗平山荘16:30
  - 9月26日 天狗平山荘8:00 富士の折立13:10 真砂崎13:45 剣淵前小屋15:10 横谷山荘17:30
  - 9月27日 雄山 立山15:34 京都19:34
- 地形図 2万5千 立山  
昭文社「1」巻・立山

# 野外塾

●雪中ビバーク術

関西アウトドアースクール  
校長 二名良日

関西でも、雪の便りが聞かれる、冬の山歩きシーズンになりました。  
天地澄々・湖山白銀……の、快晴の日の登山歩きの爽快感は、体験者のみぞ知る「最高の楽しみ」です。  
その反面、雨の日・風の日・霧の日……や、天候の急変で吹雪かれたりした時の冬の雪山の現象は、冷たく厳しい難儀な日や危険、自他ともに大変なリスクを負う事故や遭難と表裏一体のアブナイ恐さも、秘めています。  
そこで今回は、そんな冬の雪山歩きの、万一の場合に、最も直接的に役立つと思われる「雪中ビバーク（突時野営術）」について、体験的に研究してみたいと思います。

①冬着、法  
雪中野営の可能性が大な時は、極地探検・冬山登山などで使われる「冬型テント」の携帯がベストです。雪・風に強いイグルー型・カマボコ型、暖房・湿気対策の「内張り」二重構造……などが特色です。  
吹雪・雪崩を避ける安全な場所を選び、ペグの効きつらい新雪には、長い竹ベグを用意したり、よく踏み固めるなど、工夫しましょう。

②イグルー法  
ベリング靴履機乾燥機で、イヌイット（エスキモー）と生活しましたが、旅行や狩りの時に、氷アロックスをドーム状に積みあげて水の住居を作っていました。  
内にもたせ気味に、寝袋状に並べていき、最後に天井穴を塞ぎ、隙間に雪を詰め、入り口は雪ノコで切り閉じます。床底から切り廻りすると雪壁よく作れ、新雪は踏み固めれば、プロック化できます。  
③かまくら法  
雪を凹状に築き、カンジキなどで踏みしめ、平スコップで内室を削ります。  
中心に竹を突き立てておくと、センターがわかりやすく、大事な壁面の閉り過ぎを防ぐことができます。  
加工自在なので、厚い壁にローソク燭を作ったり暖をとると、広い快適空間が得られます。  
④雪洞法  
「かまくら法」は労力体力を必要としますが、少人数の雪山行では、自然の雪層に穴を開ける「雪洞法」が実戦的です。  
山すそなどの厚くしまった雪を利用するとよいですが、雪崩や吹雪の吹き溜りなどを見極めて、安全な場所を選びます。  
入り口にシート布などを垂らしておけば、暖穴を防ぎながら保温できます。



「秋田阿仁マタギ」の  
ブナ林中での焚火

単独行の緊急時には、半身大の小穴でシェラフに入り、立て膝を泡いてうすくまるだけでも有効です。  
濡れた靴は、温めておかないと凍るので注意を、簡易カイロが重要です。万一に備えて、赤布巾着を忘れずに。  
⑤焚き火法  
最もワイルドなのは、雪の中で火を焚きながら夜を明かす方法です。  
日本の雪山では最強の文化とノウハウを誇る「秋田阿仁マタギ」のシカリ（頭領）から、数々のブナ林中で、野外塾のアドバイザーと一絡に、直に教わった秘伝です……。

①テントのミソは、雪みれの立木を叩き、焼いた高い首で、柱木を鋳別し、  
②石木丸太を3〜4本を、雪上の火床にし、  
③その上で、枯木フレックを削り、「ガンビ」と呼ばれる白樺の皮（薄く剥ぎ取った）を敷き、油気が多く、よく燃えるので火をつける。  
④「インディアン法」ともいわれる、A型に据えさせる形に木を積み（井桁法だと、中間部で焼け落ち、火が消えるので危険）、  
⑤火のそばの雪上に、小枝を敷き、  
⑥針葉樹の葉を、火にあおって重ね、  
⑦雪育木の枝を3本、間隔をあけて並べ、  
⑧そのベッドに、上半身潜向きになる。  
⑨床からの温もりと、焚き火の放射熱で温まりながら、仮眠する。  
⑩万一寝込んで、凸凹の下敷き丸太が体にクイ込む痛さで、必ず助めて凍死を防ぎ、  
⑪先から根元に向かって燃えていく焚き火に新たなタキキを補強し、  
⑫針葉樹を、再び火であぶり、温めて、  
⑬体を反転、冷えた背中を、火に向ける。  
その他、焚き火法のバリエーションには、奥羽根の一人マタギから直接聞いた「雪中で、白樺の生木丸太を燃やし、雪が溶け込む穴の上に、針葉樹の大枝を刺しかせ、礎をとる……」というような面白いバリエーションがあるので、実験したいと思っています。

**お知らせ**

「関西アウトドアースクール」予定  
関西テレビ・ABCテレビ・サンケイスポーツ・朝日新聞……などでも紹介されましたが第2回「冬・雪・山」に「奈良ファイナルアスレチック」で、自然入門のアウトドアースクールを開催中です。お友達・ご家族も、ふるってご参加下さい。  
12月「ドライフラワークラフト」  
1月「野外防寒正月遊び」  
2月「火種しと焼きイモ大会」

「自然入門ビデオシリーズ」発売  
「野外入門」自然入門「テオシリーズ」  
二名良日校長総合監修 朝日新聞社発行  
VOL1 「夏のアウトドア料理入門」  
VOL2 「渓流をさがそう」  
VOL3 「秋の山野草・木の実入門」  
VOL4 「森の宝石・キノコ入門」

問い合わせ先  
「スクール」電話06(531)1810  
「奈良野外」〒550 大阪市西区西本町2の5の19 ニーオカサキビル4Fまで  
「ビデオ」電話06(3557)2710  
「サンクラフト」〒530 大阪市北区紅梅町1の14 カサキアンカ4Bまで

爽快な登高感

# 堂満岳の中央ルンゼを登る

比良

松田 敏男

堂満岳中央ルンゼ



比良といえば、何かあたたかな、どこか懐かしい、そしてやさしい気持ちに誘われてくれる山域である。京都に住む私には、北山と並んで、山行の基地みたいなものだ。

そんな近所の山、目慣れた山であるはずなのに、このコースは俄然様相が違ふ。少しおかげさまで言えば、北アルプスの雪渓を登っているような気持ちになるからだ。

初めて登ったのは1986年の3月、私の所属する山の会のリーダー格である、大山さんに連れて行ってもらった時だった。そして2回目の今回は、もうひとりのリーダーである須藤さんの企画であった。しかし今回は特に、須藤さんのリードなしでは、到底登れなかった。

7時の朝霧で京都を出発して、イン谷口に8時40分に着く。よく晴れている。前回は登っている分、私はまたあの感動をという期待感で、気持ちちはオーバードライブ状態だ。メンバーは6人。驚き歩きが初めての人もいる。

まずは正面谷の一般登山道を進む。習字なので、たくさんの人たちで賑わっている。早上げる急斜面の方は、あまり多くの雪があるようには思えない。これから登るルンゼには、さつちり雪があまりないように、願いたい心遣いだ。しかし前回も他の場所にはあまり雪がないのに、ルンゼに入った途端、しつかりと雪が残っていることに驚いた程だったから、今日もきっと大丈夫だろうと、思い直したりもする。また雪が降り積もる雪が全部落ちてしまっ

て、落ち着いていなければ危険だ。ツグツグの少し手前で、左手に大きな懸崖を見る。懸崖に向かって右側の斜面に取り付きだ。意外なことに足跡があった。ピッケルを出し、アイゼンをつける。懸崖前のちよつとした広い面で休んでいた人たちは、何が起るのかと注目しはじめた。たくさんの人たちの見守る中、私たちが6人は、雑木林をかき分け急な雪の斜面を登った。

服装の上に出ると、白い雪の小さな平地だ。もう一機道とは別世界。雪面の向こうに狭谷湖が光っている。行、手の雪面はすぐに凍くくなって、谷を登る気分になってきた。はるか前方に男性？女性？一人のパーティーと一緒に、その手前に数年前の年物の男性が登っている。凍った足どりに滑り落ちた。私も、もつとちよつと山に滑って怪我を孕きたいものだ。私たちがの後ろから、男村の人が登ってきた。今日

堂満岳付近略図



はたくさんの登山者がいる。少し登りが急になり、雪面の段差が大きくて、なかなか前進できない。私は先頭だったので、しつかりステップを切って、十分な足場をつくりながら、慎重に二歩一歩は上がる。雪がやわらかく、ピッケルがあまりきかない。前とは何か手が違ふ。もつとあざりて登れたのに、須藤さんはザイルを出して他のメンバーを確保してあげている。今日はずいぶん時間がかりそうだった。後ろから来た2人も、ザイルを頼りに登ってきた。私たちがの方が時間がかかりそうなので、先に進んでもらう。

その先には、もつと大きな難所が待っていた。同調から岩盤が欹まっている所で、岩が露出していて凍っていた。先行グループは足を大きく広げて、その圧力でぐいぐいと登って行ってしまった。見ていると簡単なようだったが、いざ足をかけてみるとよく滑る。須藤さんがまず登って、あとの5人は、ハーネス(安全ベルト)をつけ、ザイルを解んで、よじ登った。落ちても必ず止まると言われても、みんなおっかなびっくりであった。前回足置がしつかりついていて、快調に登ったのだけれど、その難所を登って振り返ると、岩壁が垂直にスパッと切れ落ちていた。そこにはやはり揺れ揺れは静かに光っていた。

そこからまた上にも露岩の段差はあったが、たいしたこともなく乗り越え、雪後の懸崖は大きくなってきた。今日はずいぶん飲酒状態で、ピッケルやアイゼンがあまりきかない。キックステップでしつかり足場を確保しながら、慎重に登る。両側の岩壁は徐々に遠ざかってゆき、幅広い雪面の急登となる。琵琶湖

## 鈴鹿の山と谷(6)

西尾 寿一著 A5判・三七〇〇円  
—仙ヶ岳・野登山・那須ヶ原山・油井山  
田原ほか—鈴鹿南部には深くはな  
いが、しつかり登りこむような山  
旅が待っている。全日善完結//

## 兵庫丹波の山下

慶佐次盛一著 四六判・二〇〇〇円  
—多紀郡の山—丹波の篠山をめぐ  
る多紀アルプスをはじめ—〇余  
山その全域を各山地図付きガイド  
上巻(氷上郡の山)好評発売中//

ナカニシヤ出版  
京都市左京区吉田二本松町2  
★京都 075-751-1211 〒606



雲高岳ルンゼ

は金吾を抱かし、早く鈴鹿の山々が望んでい  
る。気持ちにゆとりができたので、振り返っ  
ては大徳の写真を眺る。大きな眺めだ。ちよ  
つといつもの比良とは違う。やっぱり来てよ  
かった。お天気がよく、足どりも軽快にな  
っていく。爽快登りだ。

谷の崖頭を登り、頂上への目撃をつけて、  
ヤブに突っ込んだ。ほんの少しのかき分けで、  
ズバリ頂上に出た。人がいっぱいいる。行き  
のバスの中で目撃のある人たちが、あちら  
こちらと輪になって食事をしていた。私たち  
はリッパと、そこを通過して、少し金吾峠寄  
りのコブで昼食にした。登山道はその下を通  
っている。私たちは誰にも気兼ねもなく、  
日だまりの中、あたたかいラーメンをつくり、  
ゆっくりコーヒーを楽しんだ。頂上で食べ物  
をつくらせて、みんなで分けあつて食べるのは  
いいものだ。

頂上より高尾にして50分程、金吾峠に下  
った地点で、須藤さんが、「ここを下ろう」と  
言った。みんなは正面谷の一般道を下るもの  
と思っていたので、びっくりした。またあの  
ノド部のような所があるのだろうかと思  
った。ところが、「いや、ここは楽です」と  
言われ、どんどん一人下って行く。私たちが  
ついて行くしかなかった。そこは登ってきた  
中央ルンゼの北側にある。登りルンゼとも  
呼ばれる所だ。下り始めの所が非常に急で  
滑りやすい。登りが楽か、下りが楽か、  
下り始めの所が非常に急で滑りやすい。  
下り始めの所が非常に急で滑りやすい。  
下り始めの所が非常に急で滑りやすい。

間には流れて見えてはいる。沢に下り立つた。そこ  
からは、沢を左に右に渡ったり、冬枯れの木  
を払いのけながらの道だった。最後に左側に  
金吾峠を見た。形は小さいが大きな滝見をし  
た気分になった。そのすぐ下が青ガレの手前  
の一段登山道だった。  
須藤さんは橋々の間を、ボブスレーでもす  
るようにドドッと滑り降りた。登山道にいた  
人たちは、樹の中から突然人が落ちてきたか  
とびっくりしたようだった。あとの3人は、

そんなギョッパリーに見上げられながら下りる  
羽目になった。  
林一杯に、雪の山と遊べた幸わせに満ちた  
山頂だった。そして比良が、また一歩身近な  
山域と感じられるようになった。  
宣成4年8月11日歩く

△コースタイム▽イン谷口(1時間) 青ガレ  
手前(3時間10分) 雲高岳(1時間15分)  
青ガレ(40分) イン谷口  
△地形図 2万5千—比良山  
5万—北小次  
昭文科1—46比良山系



あつたのまたいぼす  
熱田神宮と野間大坊に詣でる

# 知多・渥美両半島の1等三角点

三河

## 多摩雪雄

斐濃の戦役  
名古屋ターミナルビル二階から、パノラマ  
コース第2便は、13時00分発。本隊は青森18  
キップで東京8時10分発。前橋の古田等の別  
隊は新幹線東京10時12分発。私の所属してい  
る山岳会の副会長長津田は富山8時20分発の特  
急で、バス発車直前に乗替した。この朝光バ  
スは予約制なので、頻りに人員変更やら、確  
認の電話を入れた。

この前は、徳川美術館から大山市市に行つて  
いた。今度は、正月恒例の初詣で参拝  
していた。  
昭和20年5月、多くの国宝と金庫と共に、  
名古屋駅は戦争の犠牲となって灰燼に帰す。  
昭和34年10月、金庫と共に天守閣は再建された。

戦火を免れた西面階段、表門欄干と、表二之  
門は重要文化財である。  
この城でも同じように、甲冑や刀槍が各  
層に展示されているが、名古屋城では燃え盛  
る城の豪華の写真に、栄華の消れ落ちる衰  
さを映わった。

草薙の神を神主とする熱田の大神は、天  
照、素戔尊、日本武尊、他二神で、第七十二位  
天皇のAD1133年に熱田に遷された。と、  
あり、10万平方尺の敷地内には、数多くの大  
権や、著名な二十五講、安久間燈籠がある。  
又、信長が補綴開陣の際、戦勝祈願し、そ  
の報告に奉納された信濃旗は、日本三大土扇  
の一つであり、国宝の米田殿の旗刀や、多く  
の重宝を有している。この日、新嘗の歩射神

熱山頂上にて



事の行軍が行なわれていた。  
名鉄線で、伊良湖・南知多フリーキャンプを  
購入し、全重車指定の特急で野間に向かった。  
予約した簡便「知多美浜」は、お昼所前で、  
夕方及び早朝の送迎車を出さず、タクシーも  
一台きり、増車は出来ないので、という。  
三軒の旅館は一万八千円だが、夕方及び早  
朝の送迎車を出してくれて二万円の旅館「や  
まだ」に決めた。



旅順直前の野間大坊に詣でる。広い境内には、重文の梵鐘を始め、桃山城の安殿や根本堂、山門等の重要な建造物があり、また、平治の乱で敗れた源朝が、永暦元年（1160）野間の長田忠政に、浴室で謀殺された時「せめて木太刀の一本でもあれば」と、誓やんだ。と、伝えられる義朝の墓は、受胎や良縁や開運祈願の木太刀で埋まっている。義朝の三男頼朝も十三歳で崩えられたが、平清盛の養母池の禪尼の計らいで助命され、伊豆に流される。建久元年（1190）頼朝上洛の途路、野間荘の義朝の墓に詣で、守本尊即運命地蔵菩薩を奉安したが、これは、池の禪尼の念持仏であった。

義朝墓の後方に従者の鎌田政家とその妻の墓。池の禪尼の塚は一段高い。また、石俣で囲まれた信長の三男三七傳守の墓もある。柴田將家に頼じて畿ヶ原合戦の時、伊勢で善兵したが、秀吉により野間に軟禁されて、この大御堂寺近くの安養院で白首する。次男信隆よりも義隆が略奪に優れた故に、秀吉も近及の手を緩めなかったであろう。惜しむべき悲運の武将である。

夕食の膳、付出しは甘海老、数の子、慈姑に羹。天甚麗は正海老に野菜五割、身びつりの子持蟹、鰯の煮付、活太正海老とヤリ



車道に合する四・五層の建物は、義経家康で、これより、オレンジラインハイキング道となつて、マツ、ヤマハンノキ、サクラ、トベラの、ほぼ平畑で小丘い後下道となる。南北の細長い後を突つ切るために、洗ひ切り通しとなつてゐる石手（笹）の、僅かに高い草地に、小さな噴石があるとはいへ、網山一等三角点より、60m標石は、終院を覗き見せていた。周囲は、低木のため、三河湾も半島湾も、たいした眺めは得られない。網山の登り口から25分、網山に着き、更に10分、高尾山頂に達す。北風が吹く、全犬宮

高尾山、高尾、4度、枯れ木を集めて、先ず火を熾して薪をとる。網山頂上で15分。鉄塔下で朝食の半分のみ。

大池と時志の分岐の4等三角点56・25は、東方の眺めが良かったが、其処から南に下った巨陽台の広場は、ゴミ捨て場と化していた。

無人駅の河和口には、予定通り9時20分発電車、バスを乗り継いで駒形からフェリーで伊良湖港に渡り、バスをフラワースタターで乗り継いで、越戸で下車したのは12時10分であった。

鳥腹のさしみ。大正海老、牡蠣、平貝、豆腐、長葱の味噌スキ、刺、モスク、生妻の酢物、茶漬、赤だし味噌汁に漬物。それに大丹盛は、大鯛の活造り、ポリューム満点の愛らしい若菜料理が、各人に給仕してくれる。ここは鯉白付の正間、宴集中に若手が次々、カラオケに繰り出す。今年は、新春から縁起が良いわえ。

川崎、鶴巻地の網山  
正月中日、今日は成人の日。まだ真つ暗な6時30分。大型バスは静かにエンジンをかかして、白い煙を噴き出していた。「やまにから15分、南知多道路を滑った布土川上部の標高550m地点の十字路。まだ暗い空一面の高層雲を背に、廻り回る幾台とも知れぬ川網の羽音、しばらくすると東の空がほのかに白んできた。

此処は鶴の山、南知多道路を挟んで、西側の網ノ池から、東側の10万平方メートルの松林の山谷に、約1万羽の川網が移動したのは、南知多道路の開通に端を差しているらしい。

バスを返し、地形を完全に把握してから、7時、ゆっくり南行する。右側の赤茶けた山肌や、松が枯れたように真つ白くなつてゐるのは、鶴の翼が如何に多いかをものごと

大山縦断  
師崎近の待合室には、各種飲食物の売店や、土産物店があり、意外に多くの乗客が来ていた。

乗り継ぎ時間が少ないので、危うくフラワースタター行きバスに、乗り損なうところであった。

フラワースタター入場料は800円。時間に余裕があったなら、是非観望したい展望である。ここで、とんだ英産を演じてしまった。反対車線を田原駅行だが、待合所に係員がすすに張り過ぎてしまった。苦で、引き返せ。と、大声で叫んでも無視だった。致し方なし。1時間遅れを覚悟する。

フラワースタター始発は、毎時53分。今のバスはリターン場から引き返して来た。運転手は、大山下の方が近い。と、言ったのだが、同乗していた神戸のバサマは、神戸の方が近い。と、頑として譲らず、バサマと一緒に神戸で降りると、バサマは後ろも見ずに、きつと自分の家の方へ行ってしまった。後で判つたのだが、280m圏で南登路へ、車から合する東線道へ、越戸の家並みを抜けて合するのであろう。

10分戻った登り口には、三河国立公園の赤い説明板が、若戸地区運動広場の立看板が



キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48L 赤札 ¥9,000

アリゾナ35L // ¥5,800



ヨミスポーツ

〒542 大阪市天王寺区南河堀町4-70

TEL06(772)7231

FAX.06(779)2191

① 長 バラレル、インナーフレーム付

② スーパーウエストベルト付





京都北山

ほんまのはなし (その2)

北川 裕久



第6話 淋しい師走の白い風景

もう10年前前になると思うが、暮れも押し迫った12月25日であった。こんな日にのんびりと山を歩く人組というのは、余程、暇な人間か、山に取られぬ山馬鹿ぐらいのものである。北山へ入るバスは、どの方面もガラガラで、私の乗った「高河原」行きバスも当然のように空だった。運転席の真後に座ると、借道地でチェーンを掛けたり、聯合のための通導をする助手の人が話しかけてきた。「北山は山で過酷な場所なのでですか？」

僕が余程の山好きに見えたのか……。それだろう。今日は12月29日なのだ。心のうちで「こんな荷物で過酷な場所をわけねえだろう……」と想ったが、「できれば過酷な場所だ、家のほうに忙しくて」と言っただけだ。「忙しないのなら来なけりゃいいのに」と思われたのは、すぐに分かった。それこれ話をしていく間に、鞍馬温泉を過ぎ少し登りについた所で、路面は雪が固まってアイスバーン状になっていた。助手の人は着早く降りてタイヤチェーンを掛け始めた。私はベテランのチェーン掛けに興味があり、見に降りた。玉座よくチェーンを下に敷くと、バスはゆつくりバックする。雪のまじり雪は、バスの重運感を感じさせる。

半分程来た所で着早くタイヤの上にチェーンを巻き、フックで止める。左、右をわけて5分くらいである。私なんて、チェーンを掛けるのに20分くらいかかるが、道中、運道のスラランである。シヤン、シヤン、シヤンとチェーンの音も心地良く、ぐんぐんとバスは雪原を上り、対向のバスと衝突するのを避けながら進んだ。ここが、しばらく休憩である。車外に出ると時々冷たい風が降りつけるように強く吹いてくる。クバコに火もつけられず、結局バス内でクバコをさうことになった。10分程の休憩の間に陣走の風に吹かれて、何故か心算しくなつて、このままバスで帰ろうかなと考へてしまふ。今日の目的地は鞍馬山だ。花笠峠を越えるところと雪の量は多くなり、周囲は雪の壁が1メートルの高さで続いている。大和地区一人の乗客が乗車した。荷物も沢山あったので、バスへの積み込みを手伝われるはめになった。バスに乗ってからのこの短時間の間に、運転手さん達とここまで頼りなれたことがうれしく、「バス代は夕夕やでー」とお礼を言いながら荷物を積み込んだ。玉座の食料は、うか、かなり重たい荷物もいくつもあった。この老練は鞍馬山を越えて下車した。バスは

路線から外れ、能見口を右へ曲がって停車した。荷物はおそろやらの準備のものだったらしい。再び荷降ろしを手伝われ、バスは高河原へと向かう。

私は高河原のバス停で下車した。料金を払おうとする運転手さんが「いいよ、いいよ」と言う。夕夕で乗車する訳にはいかず、きちんと料金を取ってもらった。「気が付けてな……」と名残惜しげなバスの運転手さん達と別れた。

雪は思っていた以上に深く、仏谷の登り口までずり歩き辛かった。かんじきは一度足に滑りついてみたが、思うように歩行は進まず、何度もつんのめりそうになつてスタミナだけが消耗してゆく。尾根に取りつくことにした。尾根の方が幾分歩きやすかった。徐々に高度を上げると徐々に谷山の尖峰が白く輝いて見える。



刑部の滝

ダンノ峠まで無雪期の二倍はかかったというタイムロスである。目的地まで行けなくとも、どこかで戻ればいよいよと考え、ゆつくりと無難をせす歩くことにした。ダンノ峠の八丁敷(八丁敷)の積雪量は、今までのようなものではなく、数倍の雪が行く手を阻んだ。少しの間、私は立ち尽くし、雪上に歩行ルートと思いつく。かんじきも実力を発揮できるかどうかかわからないが、何も着けないより、むしろかき、両足にしっかりと縛りつけ歩行開始である。谷の中心部には、雪を後に越す積雪で、人の歩いた跡跡すら見あたらない。高河原の尾根を乗り越え、雪の量が多いためか、かんじきの力は、いりり高確率で、雪原を歩き、快進を遂げた。刑部の滝は、見事なまでに凍りついていた。しかし少しは流れもあるようで水の音が聞こえてくる。ここまで着分して入ってきた中腰があったというも、滝の見える所で足腰をとり、再び八丁敷へと向かう。幾分雪の量も減つたように感じているが、雪道の山道より仰々高い所を歩いている。やがて白壁の土蔵が雪の白さと溶け合って、まぶしいまでに目に飛び込んできた。ようやく、目的地の隣村八丁である。夏や秋にはよく訪れる所であるが、こんなに雪の多い中をここまで来たのは初め

てであった。こんな雪深い所に人の生活があったのか、と想うと私は恐ろしき一杯になった。八丁八幡宮の祠に持ってきた正月用の小さなしめ飾りを持ち、みかんとお餅を供えて帰路についた。それまではあまり時計を気にしなかったが、その時ふと、知りたバス時刻が気になった。ここからが大変だった。午前中のんびり歩いたせいか、無雪期のタイムで歩くよりも最低バスに間に合おうもなし。帰れなくとも自宅にだけは連絡しておきたいし、とにかく高河原へと往路を戻ることにした。ダンノ峠へ着いた時は既に夕刻をすぎ、冬の日は早く、下山道で私は闇に包まれてしまった。御走の夜道は最大の嵐である。やつとの思いで高河原へ着いた。高河原のバス停は足まで歩いて自宅へ電話を入れた。腹の邊腹が満ち、寒さはそれではしげだが、空腹は、満たすことができなかった。非難食に持つてきたビーナツやチョコレート、ビスケットを食べ、冬の間、無人になつてしまっている民家の軒下で冬の一夜を明かすことにした。さすがにじっとしていると思いが身にしみる。雨具も着込んで頭から雨の人間にいた袋をすっぽりとかぶり寒さをしのいだ。目を閉じる

と八丁、刑部の高や土蔵の白い風景が目につく。窓の方で少し眠つても、寒さですぐに目が覚める。これより返すうちに、やがて辺りは透明な空になってきた。

始発で帰る京都市バスが朝もやの雲の中、広河原のバス停にウツラと見える。

この冷たい雨は淋しく静かな朝の風景が、私は冬が来る度に思出す。

道路のバスを待つているとどこからともなく「運転手と助手が歩いてきて、「寒い中、待たしてすみませんでした」と言いつてバスに乗り込みエンジンをかけるなり、「ヒーター」を最高にして車中に入れてくれた。

昨日乗ってきた人達とは違い、無口な二人だった。それとも私の疲れた顔を見て、何も言わず、そっとしておいてくれたのかもしれない。私は暖かい最後部に座り、少し体を横にして眠ってしまった。

後い眠りの中で私だけが遠い静かな白い風景の世界をいつまでも彷彿と感懐していった。

### 第7話

## 正月の山

「高麗学校を卒業すると正月の楽しみなど全部

く無くなくなってしまふ。それでも正月のもつあの微かな香気は何んとも思えず好きである。社会人になってからはほとんど毎年、正月休暇のうち一日か二日は帰郷して北山へ出かける。

私の家は京阪伏見橋南駅の近辺なので正月は初詣での人達でごった返す。その場には合わぬ山歩き好きの格好は、なんだか滑稽に感じられるのか、じろじろと見られてしまう。

元日の京都市バスは毎年北郊外と空いている。正月の山といえは決まって雲ヶ畑周辺か、愛宕山の周辺を歩く。この話も10年近く前になるが、元日に横敷ヶ岳への計画を立てた時のことである。岩壁でバスを降りると私達の三人組と高校生らしい六人パーティと、あと単独行の二人や二人組の人が同じ横敷ヶ岳を目指そうとした。

暮れに降り続いた雪は朝に全く多量で、それについて登れるには足も歩いていないらしくトレースは全くなかった。

私達は用意よく、バスの中でヤッケとロングスパッツを予め着けていた。歩き始めるのは一番で志願院までは降雪がしてあり、なんなく歩けたが志願院への登りが大変だった。その頃ここには木馬道が敷かれており、横道上の歩行は不可能だった。谷間の岩を越え

降り積もった雪をラッセルし、志願院に着いた。誰も踏んでいないならかな雪のスキーは六地蔵の石屋を包み込むように特道へ吸い込まれていく。地蔵さんの装束は穏やかで新しい年の福明けをじっと見守っているようだ。仲のいい体懸していると高校生のパーティが賑やかな声で登ってきた。私達はそのパーティに声をかけ、先に志願院をラッセルしてもらえんかと頼んでみた。若いパーティは張り切って何やら手袋の上からはめている。洗濯用の大きなゴム手袋である。なるほどあれなら手を濡らさずに歩ける。私はまた一つ山歩きのエントを穿んだ。少し休憩すると高校生達ばかりの寒いパーティでラッセルし、尾根を登っていった。私達は一番後から尾根道へ取りついていた。何もない真つ白な尾根道に一本の踏み固められた道が出来ている。今までは遠いばかりに歩きやすかった。しかし、志願院の辺りから雪のトーンは幾分乱れていく。前方に高校生の声がかかる。

「尾根へ登れ」「いや、このままトラパーズや」私達も、少し歩いて高校生達と合流した。「もう無理です」「かなり雪が深い」「斜面は登れない」などと横敷ヶ岳への登頂を断念するさうな姿勢が見えた。また、この先の峡谷からピークを一つ横越さなければ横敷ヶ

岳のピークは踏めない。2時間近くタイムロスしている。高校生の一人が、「どなたかラッセルして頂けませんか」と言つてきた。しかし誰もトツクを引いて出るものはいなかった。総数15名ぐらゐの大パーティとなつてしまった私達は誰からともなく、横敷ヶ岳登頂を諦めた。

そのかわり、現地から西の斜面を登ればすぐに志願院の山頂である。「今日の目的は、この山頂にしよう」と高校生達が言い、私達もそれに続いた。展望の良い尾根上に出た。尾根のスキーを南へ登つた所が志願院山だった。

「ここは、横敷ヶ岳より展望がいい」と誰かが言った。15名の大パーティの騒ぎになる。正月のせいとか、みんなの弁当は心持も豪華に見えた。酒を飲む人やあかんと食べる人、和やかに知らない者同士が会話を始める。出発の時点では口もきかず、別々の行動をしていた私達は、ここで一つのグループとなつていく。山は不思議な力で人と人をつないでくれる。ここを離れたらまた知らない者同士になつてしまふが、再び訪れた時には、この楽しかったひとときを思い出さずに遊ばない。いつまでもこのひとときを大切に、私は決して忘れないだろう。

私は、正月の山で前の年の反省とこの年の

抱負を思う。去年でできなかったことに今年は何一つ挑戦してみたい等と。北山は私にとつてある意味で父であり、母であり、又、何んでも打ち明けられる友人でもある。そして心やすらげる場所として、肉になつた何かを捨てて行く所なのかも知れない。

また来年も正月の北山へ登り、微かな空気のなかで、新たな人達とのめぐり逢いがあればいいと思う。

### 第8話

## おくればせのクリスマスツリー

山を歩いていて美しいものに出会ったり、自然現象による素晴らしい光景に出会ったりすることは、多かれ少なかれ誰にでも経験があると思うが、私がこれからお話する自然現象は幾つもの条件が揃わらないと見られない貴重な体験だらうと思う。

平成4年1月15日のこと。正月から晴天続きで暖かい日が多く、北山の両側の斜面は雪がすっかり厚くなっていった。ちょうど3月下旬頃の雰囲気だと思つて頂ければよい。

場所は、八丁きぬかけ坂。その日は「新ハイキング関西の山」4号の調査で隣村八丁へ

行った。この時期には珍らしく雪の少ない八丁を後にソトバ峠を越えた。

ほんの少雪、前後に降つた雪が杉や松の葉に積もり、それが今日の天気と二音に溶け出して、雪溶け水のシャワーだった。雪の斜面には無数の穴が開いて、一足早い雪の跡かと思わせる光景であった。

ソトバ峠の急斜面のつづら折れを下ると東谷林道の終点に響く。谷川には、もうアマノの姿が見られ、気の早いキノコトウが芽を出しかけていた。まだ1月中旬なのに、こんなに早くていいのだろうか。

さて、本題のきぬかけ坂へとさしかかる。谷道は少し荒れ、雪に覆われた杉の木が道を広く、相変わらずの好天で、杉の葉からは雪溶けのシャワーが降り、やがて谷から降り、つづら折れの登りにさしかかり、坂はじりめた頃、太陽の光線も、熱分解めから樹に近い状態となつていった。私は、ふと足を止め、杉の葉から落ちる雪を見た。なにやら赤色に光るものが葉の先端に付着している。か、と思つとすぐに落下して、新たな赤い輝きが始まる。

「二、三歩上へ登ると、その光は全くなくなると、他の葉先にも赤さは消え、色が消え、消える。かがんだり、立ち上がった時、首を伸ばしたり、少しだけ角度を変えて



きぬかけ坂

せ、ガラス越しに映るファンタジックな光を眺めて眠つたあの頃をなつかしく思う。  
もう、クリスマスはとっくに過ぎてしまつたが、今、私は、おくれぼせのクリスマスツリーをここで楽しむことができた。もう少し早くここを通つても、もう少し寒くても、この光景には出会えなかつたらう。  
このような貴重な光景に出会えれば出会うほど、人間の感性は豊かになるし、心の貯金箱にまた一つ宝物がふえる。

第9話

ウサギの道案内

けもの道という言葉をよく聞かれることと思うが、山の動物達がエサを求め、尻根を歩く、そこに細いながらも踏まれた形跡が残り、やがて道となる。一帯にそれだけのことはあるが、これらがけもの道と呼ばれるものである。  
けもの道は尻根跡に多く見られ、その歩いた形跡は、うまく踏ま物となる若や大木を避けて、又、急斜面を登降して、緩やかな部分に作られている。

人間は、等回線がどうだの航路写真がどう

だのと知識や地図に頼り、人間の持つ本能だけでは山の状況はわからない。しかし、山に棲む動物達は危険な場所や歩き難い場所、近道等をわきまへ、すべて本能のまま行動する。これらは、私達から考えれば大にすばらしい。この動物達の知恵を何處か山歩きの際に生かさせてもらった経験がある。  
その代表的なものは、雪の尻根道である。無雪期なら尻根が見えているので迷うことはないが、テープの目印もなく、ただ偶然と白い雪を踏むのは危険だ。平地を尻根になければなる程、迷い易いし、現在地をすぐに見失つてしまふ。

私が初めてウサギの尻根に頼つたのは、八丁きぬかけ坂付近の尻根だったと記憶する。赤テープの目印もなく、尻根の分岐でどちらへ行くか迷案していた時だった。先導からずっと私の歩く前にはウサギの小さな尻根があり、それを知らず知らずに通つていった。  
思わず私は尻根のある方へ進んだ。急に尻根は右へ廻り込んでいた。前方には何やら大きな岩が、切り株があるらしく、これを予め避けていたのである。再び尻根に乗ると周囲の状況から手探さずであることが判明した。ウサギの尻根は口指サングラスへと続いており、私は助かった。

しかし、尾跡ばかりを頼りにしては危険な

時もある。やはり、ある程度は地形が読め、現在地がわかるように経験を重ねなければならぬ。そして、けもの足跡をうまく読む方が変われば、よい自然の道案内として利用すべきだろう。  
ただ一つ、これだけは言えると思う。尾跡は絶対危険な場所へは続いていること。これは山の動物達の本能である。  
私は一度、目的もなく、ウサギの道案内で山を歩いてみたいと思う。

第10話

雪上歩行の新兵器

北山の雪質は信州などの山岳地帯に比べ、湿気を含んだと言わねばならない。このような雪上を歩こうとすれば、冬の北山は格別に滑りやすい山となるだろうし、ロスタイムも少なくない。私は、以前こんな経験があった。ある年の2月の例会山行で岩間橋から祖父谷林道を歩いた時のことである。

バス路線は除雪されていたが岩間橋から奥

は70程ぐらいの積雪があった。思いもかけぬ深い雪に私達は戸惑った。他にも数人歩いてしたが、誰一人、ワカン等の歩行具を持っておらず、ズボ、ズボと雪にはまり込みながら歩く始末。彼は何度も休憩。後を振り返れば、先程休憩した場所がすぐそこに見え、歩行意欲すら減ってしまふ。  
一人降り、二人降り、今日の目的を諦めて戻る人が増えてきた。私達もそろそろ引き返そうかと言っていた時に、後方から二人組の猟銃を持った人が歩いてくる。  
一人は足にワカンを履き、もう一人は、バリキ履の靴だと思ふが、それに穴を開けて足

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1 北アルプス編           | 34 鹿野山        |
| 2 白馬編              | 35 越前・出羽三山    |
| 3 熊鷹・奥尾山           | 36 熊鷹山        |
| 4 柳・立山             | 37 熊手山・立山     |
| 5 上高地・穂・奥美         | 38 栗駒・早治峠     |
| 6 奥高橋編             | 39 八幡平 奥山・奥山  |
| 7 奥山               | 40 十和田湖 79号奥山 |
| 8 伊豆箱根 4次 奥山 177号奥 | 41 ニセコ・新穂山    |
| 9 本奥駒・奥山           | 42 大雪山・十勝岳    |
| 10 平家駒・北岳          | 43 白山         |
| 11 遠月・赤石・奥山        | 44 奥山・伊吹・新奥   |
| 12 妙高・戸部           | 45 奥山所・奥山     |
| 13 出羽尾山・奥山         | 46 比叟山系       |
| 14 箱根山・奥山          | 47 京都北山1      |
| 15 西上川・奥山          | 48 京都北山2      |
| 16 奥山・奥山           | 49 京都山        |
| 17 ハッポウ・奥山         | 50 北奥の山々      |
| 18 奥山・奥山           | 51 六甲・奥山・奥山   |
| 19 奥山              | 52 奥山・奥山      |
| 20 伊豆              | 53 奥山・奥山      |
| 21 奥山              | 54 奥山・奥山      |
| 22 奥山・奥山           | 55 奥山・奥山      |
| 23 奥山・奥山           | 56 奥山・奥山      |
| 24 奥山              | 57 奥山・奥山      |
| 25 奥山・奥山           | 58 奥山・奥山      |
| 26 奥山・奥山           | 59 奥山・奥山      |
| 27 奥山・奥山           | 60 奥山・奥山      |
| 28 奥山・奥山           | 61 奥山・奥山      |
| 29 奥山・奥山           | 62 奥山・奥山      |
| 30 奥山              | 63 奥山・奥山      |
| 31 奥山・奥山           | 64 奥山・奥山      |
| 32 奥山・奥山           | 65 奥山・奥山      |
| 33 奥山・奥山           | 66 奥山・奥山      |

昭文社の「山と高原地図」は年度別として毎年巻頭行われます。この山行の約はなるべく最新版をご利用ください。また、お申し込みの際は、昭文社の「山と高原地図」へのご意見、ご意見を、お送りください。また、お申し込みの際は、お申し込みの旨をお知らせください。

昭文社

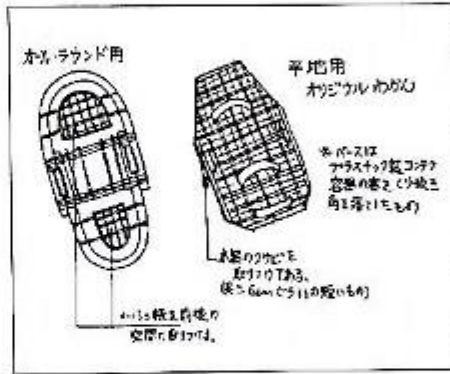
本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(326)2214(代) 〒102  
支社 大阪府大阪市西成区西成6-11-25 電話06(633)5721(代) 〒552  
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・蒲田・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡



雪の祖父谷林道

に括りつけて歩いてきた。よくは見えていなかったが、樹林帯の方がはるかに雪に沈まず、地上50センチの所に立っている。連れてくる猟犬がかわいそうなくらいだった。「この雪の中、何人も昔へんかったら次の橋まで行って戻るんがオチやぞ」と言われて、私達もとうとう引き返す決心をした。

その難儀の歩行してきた跡は、ほとんど沈んでおらず、これならばイケルと思った。但し、斜面で滑った跡があり、雪に食い込むものは何も付いていないと判明。早速、沈まず、滑らず、軽いついた三要素を含む、かんじきを研究してみることにした。登山用品のカタログから、雪上歩行用の道具を拾い出し、形を眺める。中でも、フランス製のプラスチックワカンが目にとまった。



実物を見に登山用品店をまわる。日本のワカンより少し高価ではあるがはるかに軽く、使い良さそう。ヒントは、そのアミ目にあつた。商品を見た瞬間、これは牛乳パック等の整理に使われているプラスチック製のコンテナ用器に似ているなど思つた。牛乳店では順けてもらえず、スーパーで家庭用の小物整理コンテナを二個購入。早速、底のフチをつけたままくりぬく。底のアミ目は一回り5センチの直径のもので、これだけでワカンの固定用バンドを取り付け、これだけで試験歩行

を試してみた。何と、一踏に持って来た木製のワカンより沈まず快適に歩ける。しかも、平地だけなら申し分ないが、斜面は全くダメだった。(斜面は日本のワカンが歩き易い)メッシュ板に雪が染れば、落とすのに苦労する。そこで日本のワカンとメッシュ板を合体させたような形状を考えた。それまでもいろいろと改良をしたが、メッシュ板だけでは思い通りに歩けなかった。ワカン前後と後部の空間に、メッシュ板を一回り小さく切つて取り付けてみた。(上図参照)これは思い通りの結果だった。沈まず、斜面も登れる。しかし、一段と重くなってしまった。私はしばらく、メッシュ板のみの平地上に小さなクサビ(滑り止め)を取り付けたものと、日本製のワカンとメッシュ板を合体させた、オイルラウンド用の二つを状況に応じて使い分けたが、平地用のメッシュ板は、私の体重に耐えられなくなったのか、真つ二つに割れてしまった。

## 京都北山

### やぶ漕ぎ痛快山行記 (七)

#### 新雪の雪山讃歌

# 薬師峠から棧敷ヶ岳・祖父谷峠

昨夜京都市内は雨でも北山城判(北山)周辺は雪。広河原の小倉さんに電話して30センチの降雪と聞き、早速、リーダーに連絡する。当日の天気予報は降水率午前中は20%、午後は0%、快適な雪山遊びが期待でき、早くも心は早心に返る。

集合場所の北大路駅前銀行前にはリーダーを始の17人のメンバーがお揃いでお待ち。5台のタクシーに合乗して若原志剛院まで。ただし、雪の状況で行けるところまでとあつてもらう。京都以南では雪の降った朝は気温が高いという昔からの言い伝えがある。今日もその通りで山台を過ぎても道路に雪がな。岩屋橋を渡り、西谷登道分かれあたりか

## 京都北山グループ

らわずかに積雪があるが走行に影響なし。結局志剛院の境内まで乗れた。

雪山を見るにやっぱり相対的雪量だ。全員オーバーサイズボン、ロングスパッツ着装の完全雪山装備に身を固め、リーダーよりコース説明と注意事項あり。人員確認、点呼も終わり、私がトップ露払い、イヤ今日は露払いで出発。Nさんのお孫さんサキちゃんも勇ましい。完全禁止薬草でビツリと私の後ろに続く。岩屋山からの二枚の豆がくれた沢への緩急箇所ですくも積雪多量で分かれ道は危し難行となる。どうにか渡るが今日は誰も歩いていない。ケモノ道に、うさぎ、鹿の足跡が点々と続く。沢水も消え、クマ笹が通せんぼする街道をかき

薬師峠の六地藏尊



分け薬師峠に着いた。

白い雪花をつけたような木々を背にして、黒々と並ぶ六地藏尊に真っ赤なヨダレ掛け。この光景は新雪の朝にかお目にかかれな山の峠の風情である。地蔵尊の小屋で初めての休憩をとる。サキちゃんは計り尻セードに嬉々として休みなしの元氣さ、こんな大雪に感動している。峠から右の支尾根に乗る。馬酔木や樺木に



雪の投擲ヶ岳にて



雪が降り、夏道とちがって楽には通してくれない。三年前の12月、同じ道の積敷ヶ岳側金の上とよは殿達の積雪に感嘆の言葉をかわしなうらなむ。

今回は、新雪の初で幼少には忍びのマンモス現象、枯れ枝には真っ白の雪花が満開の花盛り、先行者のいない処女雪を踏んでの、ツブは一段とフアイトが薄く、西谷道筋の尾から北極山頂の尾に乗る。ますます雪の吹き溜まりがよえる。左斜面は松林直後のひらけた斜面で二回目に休憩。眼下には雪に埋った大森北谷から西村坂方面の白い山並みと噂んでいるように見え早々に出発。突然今までなかった人の足跡が右の谷から上がっている。シンキョも御師の足跡か？ 夏道を登る山へと続く。とにかく用心して進むことにし、その足跡を追いながら歩くが灌木の雪したたけの際には高さを上げるとよふ。雪深いトップは御師？ のツボ足跡に続く。800mあたり岩山山の尾で先行者のツボ足跡が消える。たぶん岩山山へ直登をとったと思う。この先右下指針の上のトラバース、夏道でも様な箇所、ましてやこの雪量、四宮八宮のラッセルを強いられる。進行方向左上に反対側積雪を樹間から見る。滑り落ちた進路修正。稚木林

のカーンまで進出。また先程の先行者の足跡を発見。彼も尻セードでカーンに出ている。左上の積敷ヶ岳への後継に乗って木々の間から東方天ヶ岳から比叡山が自標に並ぶ。天空も真っ青。左右は真っ白な雪花の林。霧やかた起のくり返し、鉄塔も閉塞かになつてみんな雪山歌ルンロンと進む。巨岩がめめめ「に雪が積もってないところを見る。気温は雪のわりに冷えてこないをみる。雪原を歩くとはとなく遠く遠くの広場に

出る。広い雪原の砂筋、西方に標高山、天童山、東保山と並びの峰々、送電線が雲尾時の間所まで一直線に伸びている。いつもながらここは経路が台だ。しかしリーダーより昼食は三角点の山頂でと備もあり、雪に押された毎原のブッシュをラッセルしつつ、各自たき火用の枯れ木を集めながらの自由歩行で頂上広場に到着。

誰もいない積敷ヶ岳の頂上、積雪50cm程度、東方の眺めは寂寂。無雪道なら2時間のところ、今日の雪山歩きは3時間かかったがサキちゃんを含め18人のパーティーで3時間は早いほう、みなさんの健康よりは称賛に値する。雪原を八畳敷ほどの広さに踏み固め登る場所を確保する。各自持参のお惣菜が四座に広げられ、たき火を囲んでの食事は暖かくてお

いしい。リーダー、得意の納めもでき上がりエエー匂いが広がる。最後は日さんの海外山行のお土産ブランドデー入り紅茶で仕上げ、1時間半に及ぶ尾巻を終える。

集合記念写真を撮って、午後のコースナベクロ峠、祖父谷峠へ進む。トップはリーダーに任せ尻について歩く。稜線の右側は枯れ木、左は雪花のつく雑木と、風のイタスラ、現象の中をゆく。ナベクロ谷の遠望側の斜面は依然探され境界が広がる。祖父谷峠右側の鉄塔ピーク右方向まで祖父谷林道が延びている。今年未だには井戸側と逆塔することだろう。ここにも開発と保護の矛盾の現象を思う。千孫の時代の山歩きは……。

々々進むうちにナベクロ峠の樫の大木の下に着く。山本庄五郎の「樫の木は残った」ではないが樫の木よ、いつまでも存在であれと祈る。城門町環境整備協議会が数年前に出た。今日はこの雪原から西の足根には誰も入っていない。小休止の後祖父谷峠へと急降下。またサキちゃんや阿真のお姉さんが煙々として尻セード、アツという間に峠に着く。四本杉は健在。祖父谷林道もここを開闢しなかつただけでも雪がふさふさか。最後の小休止を終え祖父谷を下がる。ナベクロ谷の出会いを降りると林道にとび出す。林道は先達種族から見

た通り左上に積んでいる。車が入っているのか車が凍っている。寒海には湖山其戸に住来する車の排気ガスに汚される様な林道になるであろう。

後は岩屋橋バス停までの林道歩き、三々五々自由歩行で歩く。すっかりアスファルト舗装が完了した林道にブツブツ音いながら歩いていっているうちに治屋橋に着く。バスタイヤが変わり5時の次は17時20分までない。リーダーの無線タクシニ配て30分もしないうちに次々と車が到着して、それぞれに分乗して帰路についた。送電線行前には17時頃最後の車が到着して、リーダーより解散宣言。雪山讃歌の山行を終える。

平成4年1月16日歩く  
 ▲参考タイム▶北大陸鉄道銀行前8:00(タクシ) 志明院8:30 40 凍峠9:10 積敷ヶ岳12:00 13:30 祖父谷峠14:20 当院標16:00 30(タクシ) 北大陸鉄道銀行前17:00  
 (地形図) 2万5千1周山  
 昭文社「47京都北山」  
 (記録・出口標次)

(C)の花(USG)

ミラン (Chris Australian Um)

ミラン (Ranzen)

「スレイン、といえは」カシノマル「ミラの頼りつりる太極」みかんといえは「日本の愛・ミラン」を演じてしまいいま。アレスを頼りながら食べている。いくつかの間「やら食べた山として」使われています。生業の歴史といえは中国では糖の皮でミランの単交を積極的に使用しています。ワックスのかけられていない綿織ミランを扱って「果実をその味、あるいはは適しては後戻りしない、認察して用います。一年に経過したもので、酔いを除く芳香のあるものや良田とされています。主成分は細胞成分の4-リノール酸、フラボノイドのヘスペリンを多く、元来性温帯果として食味不凝・消化不順・腸気などに効果的です。

万葉集・巻八 聖武天皇  
 橘は 果さへ花さへ、その果さへ  
 枝に懸ればたし、いひ若葉の木  
 (和歌の「橘」をさかす歌)

高安城から信貴山

松永恵一

元巨の朝  
遙か彼方に奈良と大阪を隔てる淡緑色の生駒山地が横たわっている。今日の、生駒山は、平田な山とのテレビ塔や電波中継塔がわずかに盛り、高安山のリーダードームが鈍い光を放っている。

生駒山地は、大阪近郊にあつて四季折々の風物詩がうたわれる、ゆたかな自然の残る地域である。

やさしい枝先の小さな新芽から、雑木林の芽吹きがはじまる。「一日ごと」「一樹ごと」に樹々の緑が変化し、自然界の営みはドラマチックそのものである。

大地の奥深くで息をこらして待ち続けている春のいのちが、光の呼びかけに応じて、忽然と姿をあらわす。

はるを見つげにいった  
かれくさの中や川の中に  
はるがすわつていたよ  
のほらにもはるのあかちゃんが生まれたよ  
かおいいはるのあかちゃん  
自然を友達にしている「ねむの木学園」の、さとうたかひろ君の詩だ。

わが歩む旅業の音のあるばかり、杉田久女カシヤカシヤ、バリバリという音が心地よい。足裏のふかふかした感触がいい。きつね色や金茶色の朽ちた葉の積み重なったやわらかな山道を歩くと、歩いていくだけで気分が落ちついてくる。

ヤマモモの笹原橋、イチヨウの並木道を歩いたりと散歩するのでもいいが、雑木林の小道をひたひたと黙々と歩いてみたい。

高安城の倉庫跡礎石



高安城

船乗りせむと

日待てば 潮もかなひぬ

いまは潮をいでな

（『万葉集』巻一、8 額田王）

熟田津で船出をしようとする月の出を待つていと、いよいよ月も出て、潮も湧ちて航海に都合よくなった。さあ、こぎ出せよう。

669年、大陸の唐と朝鮮半島東南の國・

新羅が同盟を結び、半島西南の國・百濟を攻め王城を滅亡させた。百濟の武臣は、交流の深かった日本に必死の救援を求めた。永年つらつらつてきた半島の権益を守るため、中大兄皇子（のちの天智天皇）は、ただちに兵を動員し、大船団を組んで九州にむかった。額田王は船の船先に立つてうたった。

先遣隊五千、本隊二万七千、増援二万、計四万二千人という大軍を朝鮮半島に送り込んだ。いったん滅亡した百濟を再興するため、唐・新羅の連合軍と戦った日本軍は、663年8月、白村江の戦いで大敗を喫した。四百隻の日本艦隊が炎上し、日本人の血で海水が赤くなったという。

明日にも、唐・新羅連合軍が日本本土に侵襲を敢行してくるかも知れぬ。中大兄皇子は、来るべく本土決戦に備えて、ありとあらゆる防備をつくりあげていった。

まず、秋風の翌年664年、筑紫の太宰府防衛のため百濟に使者の派遣により、山城・大城が築かれた。また、667年、対馬・壱岐の巨港とともに畿内にも高安城を築かせた。さらに、飛鳥にあった都を近江に移した。近江へ、琵琶湖の初太交治に預つて、北陸から高句麗と連係作戦をとることもできる。まさかという事案には、北陸や中山道に

脱出することもできるからである。

この高安城は、場所が確定できず「幻の高安城」と呼ばれていたが、昭和59年4月、八尾の市民グループ「高安城を探る会」が高安山頂から奈良県間へ下ったところで、3間×4間の6棟の倉庫基礎石群を発見した。この発見によって高安城の存在がはじめて確認された。

信貴山遊覧記

信貴山 朝霧寺に寺に、回廊上信貴山遊覧記 巻三巻が伝えられている。中興の開山・命蓮上人に関する物語を描いたもので、作中人物の愛憎動作は生き生きとしており、すぐれた描写と構成で、まことに劇的な効果をおよぼしている。

第一巻は「飛鳥の巻」と呼ばれる。信貴山の命蓮上人の奇跡を描いた物語である。山崎の長者の屋敷、校倉造りの倉にお鉢がおりたを求めて飛んできたが、長者はそのまま放っておいた。すると、倉全体がグラグラ揺れ始める。倉は縁にのつて飛び始める。長者はたいへんだというので馬にまたがって走りかかる。

倉は深川の上空をゆるゆら飛ぶ。道ゆく人が驚いて見上げる。長者はどこまでも追う。

飛んだ倉が着いたところは信貴山だった。追つていった長者は命蓮上人に倉を返してほしいと乞う。上人は「せつかく飛んできた倉だから返すわけにはいかんが、中の米はそのまま持ちかえれ」という。長者は「倉の中には千石の米を入れてあるのだから、すぐに運ぶというわけにはゆかぬ」とこぼす。すると上人は「いと弱いな」と。僧侶が連ねてあげよう」という。上人は、従者に命じ、お鉢に「袋をのせて飛ばすと、米袋は雁のように群雀のように、信貴山を飛び去る。やがて米袋は長者の家に音を立てて落ちてくる。

第二巻は「福地持の巻」。命蓮上人が時の菅原朝大臣のご病氣を祈禱によって癒やし申しつけたという物語。天皇の病は重く、あらゆる折檻・薬石も効果がなく、そこで宮中から使者が命蓮上人のもとへ立てられる。すると、上人の予言した時刻、天皇の夢に護法童子が舞に乗って現われ、病氣は平癒する。

第三巻は「尼公の巻」。命蓮上人の弟が信濃国から弟の行方を求めて旅の苦勞を重ねたあひく、信貴山にいる上人とめぐりあひ、姉も信貴山にとどまって修行を怠げるといふ物語である。

平安時代末期の作といわれ、作者は鳥羽僧正とも伝えられているが定かではない。現在



信貴山朝護孫子寺

は奈良国立博物館に出陳されている。

コース概観

今回は、レーダードームの輝く高安山に登り、河内平野のすばらしい眺望を満喫し、山頂付近に点在する古代の山城・高安城址、高安山系レーダー、横穴式石室の高安山古墳群の一角、信貴山城遺址を見学し、真珠面に位置する高安城の倉庫址礎石を見学し、

「信貴山朝護孫子寺」で有名な信貴山朝護孫子寺へと自然の中を歩く、史跡探訪である。

近畿信貴山朝護孫子寺から西信貴タワーで8分、高安山駅で下車。高安山、大阪府東部、八尾市にある標高487.5mの山で、山頂には大阪府立総合資料館のレーダーが鎮座し、昔は欽山ともいわれた。足跡をせば、まはゆい光をになつ街並みが目に入る。遠くには、灰色の大阪のビル群越しに、大甲の山脈、大阪湾のきらめきまでの眺望が広がる。一面のイルミネーションと化した巨大都市大阪の夜景も楽しめる。

大正の初め頃、この山の頂上に橋をくんで、その上から一人が双眼鏡で大阪からの信号を捉え、一人がそれに手紙を添えて、大阪の米相場を大和の方にとりついでいたことがあったという。『朝護孫子「八尾の史話」』

高安山から信貴山にかけて築かれたという高安城。倉庫址の礎石群などは発見されたものの、決定的な遺構は未発見のため、まだまだ「幻の高安城」だ。

高安山駅からは、周辺のハイキング道がいくつか整備されている。信貴山への道は緑の中のルートとして親しまれている。駅前に天跡を見ながらハイキングをしてほしいと願って建てられた、高安山史跡案内所がある。高

安山城 高安城倉庫址礎石群 信貴山城の案内がなされ、この順に歩くと、ハイキングと歴史探訪を楽しみながら、自然と信貴山朝護孫子寺へ行くことができる。

落ち葉と露草土の心地よい感触を楽しみながら歩いてゆくと、毎に開かれひっそりとした信貴山レーダーの跡に出る。西信貴城東は信貴山麓と半ば入り、の廣間にわたって遺構が確認できる。空回りのレーダーとの連携により、紀伊本道に入る台風は完全に把握することができた。

高安レーダーの背後の丘陵にJ墓の古墳がある。高安山止口遺構がある。1号墳は以前から開口していて、武器庫の古墳として有名であった。無様式の横穴式で、後行きの約2.7m、幅約1.5m、出土した銅器類の形式から高安城と同じく7世紀の中頃に築かれたものと思われる。

高安山の山頂部の小字を出陣という。戦国時代の終わりに、松永神正久秀の信貴山城の山城が築かれた所という。山頂部は大きく削平されていて、本丸、二の丸、三の丸と言われる曲線に分かれ、典型的な中世山城となっている。大阪府教育委員会の発掘調査では、建物と礎や礎の遺構などが出土している。松永久秀は信貴山城に降り継田信長に対抗



したが、ついに取め滅ぼされた。牛駒山が正面に見える。信貴山へは難路を直進しないで道楽に笑って右に折れる。今年ほどり年。一元の宮・高安山朝護孫子寺で白いクジャクと対面している。花のころにはサツキ咲が美しい。

そこが高安城倉庫址礎石群の場所だ。周辺はひっそりと静まり返っている。少し休憩をとる。吐く息が白い。つま先を伝って寒気が震ってくる。かじかむ手で熱いシネラカッパを握り直した。もとの道にもどって進む。「井財天の池」の案内がある。この流は信貴の「門」に使われる人工の池である。山腹を登っていくように登る。ほのかに霧の匂い。ゆっくりと足を止める。そこはもう聖地「鉢堂(空鉢遺跡)」である。巨の神で二層は必ずかなえる。大きな神様。後陣若のひしめきあう狭い参道は、ピッと肌を刺すような空気に満ちている。正月に一年の幸いを祈るには、身も心も張りつめてのぞみたい。豊かな自然が心身に活力を与えてくれる。

本殿をめぐり、赤い鳥居の無数に立ち並ぶ。長く、まろ、つづら折りの参道を歩く。福助的に刻まれた石版、踏み出す足は規則的にならざるを得ない。縦まで踏えたはずのひざが軟弱をあげそうになる。今更には下りたが登る時には、真冬と同じくらい冷かさがしたたり落ちるほどだった。一歩一歩踏みしめる。信貴山朝護孫子寺への思いを馳せながら、年の始めに幸せを贈る遊男遊女であふれ返る。歴史道りの顔が迫り出す本堂に下った。

知られるままに「感嘆めぐり」をするため



# 新春の山

## 特選 コースガイド

- ① 雨乞岳
- ③ 金比羅山
- ② 檜ノ塔・長谷
- ④ 高野山女人道



霧水の道 (五三三)

霧水が澄みきった青空の中で、キラキラと陽光に輝いている。これを見ることができるのは冬の山だけである。

この光景は決して平地の雲でお目にかかることはないし、雪の少ない里山でもめったに巡り逢うことはない。  
霧水の美しさに歓声を上げるなら、かなり

### たのしい山歩き 尾瀬雑考⑧ 「木道の今昔」

松下 満

高山植物や古層湿原で知られる尾瀬にその一歩を印した人が最初に目を惹くのは果しなく続く木道ではなからうか。一部を除いて緑化されて歩きやすくなった木道、もしこれが無かったらと考えると……。

尾瀬雑考②「ジャンケン大会」(第2号野新春号)と一部重複するが、歌謡曲「夏の思い出」のヒット以来入山者も増え、まだ木道がない頃、夏期には大江川湿原の比較的乾いた所に呉坐を敷き休憩をとる風景が散見されたり、湿原を避けて歩く入道の列がでたりで

湿原の緑地化が進んでいった。  
いま尾瀬の入山者に供用されている道(地蔵道・木道・階段・橋)は延べ約57km、その管理者と管理期間の内訳は、福島県25%、群馬県12%、茨城県10%、東京電力の子会社で治山管理を行なっている20%となっている。木道の敷設がいつ頃からののか記録は定かではないが福島県側では昭和27年に小丸太材を楯に使用し歩道に合わせて敷設したという言い伝えがあり、尾瀬林業の記録には昭和33年とある。もちろん現在の木道と違い、周辺の山の風倒木を利用した横割丸太の平らの部分を上に向けて置いただけの代物で、歩きにくいことこのうえもなかった。

湿原に直接敷設された木道の寿命は平均7〜8年とか。その交換には大変な労力と費用がかさむ。弘瀬は何気なく歩いているが考えようによってはお金の上を歩いているのと同じではなからうか。木道の南に東3・東62・群2・群50等の焼印が見られる。これは東は東京電力が平成3年、昭和62年に敷設した木道の意、同じく群は群馬県で敷設された昭和の年度である。敷設前までは楯(福島県)の焼印も見られたが現在は無印である。

尾瀬ヶ原で近年敷設される木道は高脚架式になり、大雨によって木道が木没し、通行止

めになり、入山者の日程が狂い動静に差し支えたとするような話を聞かなくなった。  
「最近敷設される木道は殆どが落葉松の木であるが耐用年数、費用の関係でコンクリート・強化プラスチックは経合金等の木道代替品の使用も検討され、その試作品も供用された。コンクリート製については取壊せメントの出現する前度(強度の強い場所)でH3前後の所もある」ではボロボロになり使用不可能になった。コンクリートをアスファルトで替えてみたが、やはり中味がボロボロになった。いまこの遺物は大江山湿原・ピジター・センター間で余命を待っている。  
プラスチック製については強度に問題があったのだから、長瀬小屋から降下したところと、尾瀬湖北岸コースの長美新井分岐点付近にその試作品が見られるだけである。経合金についてはその試作品が尾瀬のイメージに合わないといふの目を見なかつたように記憶している。尾瀬にはやはり木道が良く似合う。  
シンシンと雪の降り積もる冬の尾瀬は入山者も少なく、すべて雪の下。木道も冬の間は雪の下に埋まって静かに雪の訪れを待っている。  
湿原や古層湿原の自然環境にとって木道の果す役割は絶大である。

標高の高い山に登る必要がある。きびしく寒い季節だが、思いきって今冬は霧水の台地の山に挑戦してみよう。積雪量が少なく歩きやすく、冬場は暖かと思まれる日が多いため、爽しい霧水に出会う確率が高い。

霧水ツアーで名高い「三峠山」はその種類格であらう。シーズンの味白は、近鉄橋本駅から登山口まで直行バス(霧水号)が運行される。三峠三角点の山で、登山道も良く整備されているので初級者でも大丈夫だ。展望も良好、八丁平とよばれる湿原の薄木にいた霧水は実に素晴らしい。

「三峠山」は歩行距離からいって中級向きといえる。ここも臨時バスが出る。登山口から小峠まで樹林の中、小峠から急登して平野道に合して尾根上になると、霧水の山らしくなってくる。山頂付近はブナ林にいた霧水がきらめいている。いったん大峠へ下ってから登山口までの一巡コースを推奨する。  
大又から「明・神平」のコースも良い。明神平から「回見山」や「伊勢辻山」に足を延ばせば尾瀬の霧水が堪能できる。健脚のパーテイなら「前岳」を回って、ちよびりスリリングな岩場のある雪山を体験してみよう。しっかりと雪山の装束をして、暖かく登ることが良い思い出を作ってくれる。

### コクイ谷、杉峠から

## 雨乞岳

あまこいだけ  
鐘御コース(★★★)  
小山 ひろし

雨乞岳へのルートは数多くあるが、武平峠を基点とした杉峠経由の左回りコースを紹介したい。

鈴鹿の山といっても滋賀県にあることから三草塚からは距離があるし、当然時間もかかる。特に冬場は、中級コースであるが、かなりの傾斜を要する。雪が少なく、鈴鹿スカイラインが機能していれば、近鉄湯の山温泉駅から武平峠までタクシーを利用するとよい。使えない場合は、近鉄湯の山温泉駅から湯の山温泉までバス(10分)で行き、三草川を車道終点の一の谷温泉まで詰め、昔からの武平峠道とつづく。バス停から杉峠まで徒歩40分。武平峠への道は茶屋(ここが登山道と標榜する)のすぐ先の石段に始まる。石段を登り

すぐ左手の赤錆の小橋を渡る。右手の鈴鹿スカイラインに付かず離れずゆるやかな登りを行くと、15分程で基岩可能な小広場のあるブナ林に着く。谷を左に巨岩がら更に進むと、程なく道はスカイラインと接し、左手に大堰堤を見る。堰堤上流で左に鈴ヶ岳への三ツ口谷道に分ける。更にその先見多戸知谷を右岸に渡った所で、鳥居の立つ、御在所岳登山道を右に分ける。今渡った流れを左下に見るようにして高崖をかきいでゆくと、やがて前方が武平峠である。

雨乞岳への谷山口は、スカイラインの武平トンネルを逆側へ抜けたすぐの、峠谷にかかる小橋を渡った右手である。橋の手前の両側の広場に駐車場がある。天候にもよるが、ロングスパッツを着け、アイゼン、かんじきを携行し、羽を右は、羽が多ければ、風も非常に強い所だから十分な冬山装備が肝要である。

峠谷を右手に登道道とすりつくと道はずやに谷と離れ左手に向かう。その斜面を左に見てまだ若い植林帯を縫うように進み、雑木林に入り、二、三の小沢を過ぎ沢谷源流の細い流れに沿う。武平峠から一時間程歩いた頃、大きな露跡のある小広場に着く。クラ谷と沢谷の出合いである。左に上れば、東雨乞岳と

七人山の鞍部にとりつくとクラ谷道。右、沢道しに下れば沢谷からコクイ谷経由の愛知川道。左は橋路に接する。ここにしてそのまま沢谷を下る。ただし、このコースは、沢歩きが主となり足場が悪いから、天候や凍結状態ではクラ谷道の往復に切りかえる方がよい。冬場以外は、そんなに危険なルートでもなく、シヤクナゲや紅葉の季節は特に素晴らしい。愛知川までの下りは約1時間10分。途中、御在所宮者他からの黒谷道(標榜)を右に分け、黒跡をいくつか見る。まもなくコクイ谷と愛知川の出合いという辺りで、かなり大きな飯場か山小屋かの跡を見る。この出合いは御見峠からの上水備忘との合流点でもある。



杉峠にて

この出合いから左方向、愛知川の源流へ右岸を半分程越った地点で左岸に渡る。杉峠への取り付き口である。川原の取り付きから5分程登ると露跡にぶつかり、道は左右に割れる。どちらをとってもいいが、左手が本道である。更に5分程で、右に「御池鉱山跡」への道に分れる。ここから杉峠まで約1時間。途中、しつかりとした石積みの残っている露跡

跡を見る。御池鉱山の全盛期は、明治時代で、御池岡や釜まで掘えた一大財窟を形成していたそうである。登山道から少し右に入ると、それらの形跡があらわに見られる。いい季節を選んで鉱山跡を散策するのも一興かと。杉峠には、風雪に耐え抜いてきたという感じの杉の巨木が一本立っている。周囲の展望はさかかないが、東側はますます。巨木の前は



雨乞岳付近略図

小広場まで7、8人は休めるが、この辺り露跡が厚く、積雪期には雪をあげる。

杉峠から雨乞岳への取り付きは、杉の木を背にした左手。覆いかぶさる露跡の中をゆっくり進んで突き進み、胸突きがりの急斜面にとりつくと、このコース初めての人は、杉の木を中心にした半鐘10分間の露跡に着まれ、方向を見失いがちだから、地区と露跡は必須品である。頂上まで約45分だが、前半の20分がなかなか手ごわい。その分後半の露跡歩きは足も軽いが、頂上直前までまたまた背よりも高い露跡、ヘンネルを渡る。腰をかめ踏み跡を踏みかめながら進むと、頂上直前の池にひびひびと降り飛び出す。その昔、雨乞岳式の標合になったであろう小さな池。こんな山頂にどうしてと驚かされる。池を左にまっすぐ南に進むと、一気に温泉が湧き、いきなり雨乞岳頂上に立つ。周囲を注ぎ込まれた八重りと間こ



雨乞岳にて  
上はど霧やかな日です  
し「こちらには風が強く、

い限り冬場の状態地には速くない。雨乞岳での昼食が無理な天気なら、東雨乞岳と七人山の鞍部まで一気に下ってしまった方がよい。一気に下ってもこの下り、下手に深く切れ込んだ歩きにくい道である。じっくり腹減りに下りたい。雨乞岳から鞍部まで約25分。ここまでくれば風もそう強くない。

鞍部からは右手(南)から雨乞のクラ谷道を下る。程なくクラ谷源流の細い流れが現われる。流れて沿って約50分下り、右手の小きな露跡を越え、行きに道を分けた沢谷分岐に着く。武平峠までは約90分。あと一息である。

平成3年11月13日撮影

△コースタイム▽  
近鉄湯の山温泉駅(バス10分)湯の山温泉バス停(40分)一の谷茶屋(20分)三ツ口谷道分岐(40分)武平峠(1時間)沢谷分岐(1時間10分)愛知川(1時間20分)杉峠(15分)雨乞岳(10分)東雨乞岳(20分)七人山との鞍部(10分)沢谷分岐(50分)武平峠(1時間10分)湯の山温泉バス停(バス10分)近鉄湯の山温泉駅。  
※武平峠まで車を使えば往復で約2時間30分は短縮できる。  
△地形図▽昭文社「15湖沼所・霧ヶ岳」

三角点を尋ねて

榎ノ塔と長谷

中級コース(★) 上田 伴弘

大和の三角点を尋ねはじめて五年、やっと1等10、2等43、3等183、合わせて全体の60%となった。

その中で、冬の季節人のあまり行かない下北山村の点へ、古坂近鉄タクシー勤務のK氏の公休の日、彼の自家用車で出かけた。午前8時52分、近鉄古野駅の発車で降りたのは小生一人、K氏の車で9時11分古野駅、平日通った宮の線、信濃峠トンネル、池原、池家を経て油向から国道425号線を右折し西へ。11時07分強向バス停から1・5、ほど入った下北山村森林組合屋敷倉庫が左側にある所に車を止める。少し早いが昼食にし、11時55分出発。1000m西に新宮山登りくまの「登捨山・行仙宿山小屋登山口」の立札

を見て、笠越へへの道をとり、コンクリート橋を渡る。陽も照り暖かい杉林を奥地川の右岸に沿って行く。尾根を一つ回った所にフェンスをめぐらし「奈良県森林基金管理地」があり、鹿から苗木を守っているが、支柱が小径の真ん中に立ち歩きにくい。南西に少し下り、谷を縫って行く。二つ目の尾根の松の下、休場で一息入れる。さらに西へ笠越橋を行くが、この道は又久三年(1863)8月19〜20日に天候細の本隊が山中で野宿をして使った道である。

しばらく行くと榎林小屋があり、水もあちこち、ピーク781の間の等高線800mのあたりから、屋根を南西へ、右に大杉、左に若木の間を行く。この尾根から三角点のあるピークが見える。コンパスを見る。間違いない。やや東へ巻いて尾根に出る。このあたり少々霧あり。少し下り巻いたピークの東側の端に点あり。14時25分、大石を登って、三角点の標を写して来たカードを渡す。「3等三角点 榎ノ塔、標高938・3m、明治36年7月3日測機、所在地下北山村榎ノ塔ノ戸、北緯35度59分26秒021、東経135度55分44秒302」と、計測、撮影済みます。K氏も息を返す。近くの木の枝にくくりつける。

南西西に3等立木(雲白山)が見える。



榎ノ塔三角点

K氏と登山笠越山と一帯に巻いても登ろうかと話す。結局この年の5月下旬、あと30分という所まで行って引き返した。榎ノ塔頂上は北傾が杉の日生に松の積林、南は雑木でシヤクナゲ、アセビが見られた。今は雪がまだあるが、花の頃はいいだろうなと語り合いつつ、こんな山へは誰も来ないだろうな、いつまでもこの静けさと、美しさを保っていてくれよと、標石を撫でて、さよならする。

車を止めた所へは16時30分着。奥地川と西ノ川に沿って下り、大里・南原トンネルを抜け、駐在所、電線会社の前のベンション「女が」へ17時05分着。私達二人のために営業してくれた由、うれしい。帰路、翌朝、雨という予報があったり、今でも降り出した。上下雨具をつけ、8時発車。池家の3等三角点長谷へ登る。池家で御婦人に尋ね、電線屋(2万5千地形図未記入)のある所が三角点だと教えてもらい、池家バス停の所を東へ入り、華住の大きな家の前に車を止める。弁当など車に残して、8時55分出発。東の杉林の中に、広い地帯があった。南東か



口長谷ピーク(アナンナのどこ)

明治36年7月11日測量、所在地下北山村池家字長谷、北緯33度01分00秒47、東経135度57分58秒021と大石で読み上げる。K氏点名板、受へつ

ら北東に大きくカーブし、このカーブの所に二〜三段の梯子があった。池家池水道の施設があつて、その北をまっすぐ東へ登って尾根に出る。北にも下りアナンナが見えるが、南へピーク620に立つ。雨も上がったようだ。ここには、NIIK北山池原テレビ中継所がある。

さらに南へ鞍部を渡り線が越えている。少し行くとお地蔵さんが祀ってある。村史にある「た地蔵峠」というのはここやかと了解して、松の植林の尾根を南南東へ進む。歩きよい道である。前方にある集積機と松のためかかなり登っているらしい。小径の左(南東)に点の標石がある。9時41分。一層南703・26m。平成3年2月23日口歩く

るすこと昨日と同じ。標石のまわりの雑れ草を刈っていたら、ぬつと男の方一人登ってこられた。互いにはびっこり。聞くに松下高野の方で、点の東西50mほどにある電線開閉所池家中継所の向こうに立つ奈良原池家中継所のバッテリーの点検に来られたとか。30分ほど点に掛く。下る。先ほどの方が供えたらしいミカンが地蔵さんにあつた。また雨具も貸いてあつた。地蔵さんから半分ほど下った鞍部を左(北西)に下る。いい道で、谷には鉄製の橋も架かっている。やがて、往路カーブにあつた梯子の所に降りて来た。車を駐めておいた所へは11時08分着。乗換場所を獲して、池原タムを北から見おろす。平成の森、雲白山に至る。少しまた雨が降り出した。

陽光溢れる

金比羅山

初級コース(★)  
福井 正 身

雪の積もる冬景色の山々もいものだが、一度は気分を変えて、海に日光の反射する暖かな低山ハイクはいかがだろうか。

近鉄特急で大阪難波からは2時間半、本郷からは2時間50分、陽光溢れる志摩・金比羅山を御紹介しよう。

近鉄野島駅で下車、駅を出ると正面に近鉄志摩線光船の乗り場がある。御座・浜島行きに乗ると、船はけっこうなスピードで島と島の間を志摩半島の先端まで行って行く。出港して間もなく、右に志摩嶺山が見える。この海のリアス式海岸を見学するには恰好の展望台のある山である。御から見る多面の湧り横に長い山である事がよくわかる。ほんの10分もすると、今度は左の志摩の先

に、いくつかの小山が見えて来る。今日登る金比羅山は、この中の山頂に木が3、3本くらいと生えている山である。あつと云う間に、御座の港へと到着する。

下船したら、右へ50m程進むと、正面に民宿の看板がいくつか立っているのが見つかる。「金比羅山ハイキングコース」山頂まで1200mの立て札を木の枝の間に見つける事ができる。

5分程坂を登り、切り切った下りかけた所に「民宿」と書かれた看板が立っている。この急坂を登ると、御座の町を見下ろすすべし不動の島居の前に出る。山頂まで750mの立て札が立っている。

民宿「一葉」の前を通るとすぐ山道となるが、道はしっかりして迷う事はない。薄く雪の付いた、雨の後なら滑りやすい道を歩いて正面の小山を右から巻いてゆく。

「あ、一歩々々」との金比羅山へと登り行く時の感動を、われはここに此処に語り表すべし。これは唯一刻も早く、その四角形海なる大塚に接せんと思ひ、坂道の険なるも、双面の破れたるをも、何れも一切悉く忘れ果てて、山から山へと湧りたる風情ある路を急ぎ急ぎ登り行けば、次第々々に頭は来る右と左と後との三面の眺望の美しさ、あ、

海上からの金比羅山



我は殆ど、手を拍ち、膝を叩き、大層快を叫びたし。

田山花袋の「志摩のめぐり」の一節であるが、あまりの有名なので、このまま山頂の眺望も、花袋の筆をもつて御座には伝えさせて置きた

い。「見よ、わが右にひろがりたる大海は、今しも美しき夕照の光を帯びて一帯ことに、黄金色の色彩を帯びたるにあらずや。否、その夕

われを忘れて手を拍して快哉を叫びつつ、あ、われは決してこの一帯を忘れること能はざらべし。

往年曾々富山の上に登りて松島の八百八島を望み、その風景の絶佳なるに驚き、ひそかに天下絶無の景と嘆ひしに、誰かその松島にも劣らざる風景の、この辺地の地に埋れてあるんとはいかぞ知るべき。」

一度山頂に立てば、あまりにものんびりした所なので、一時ははぶらぶらするのが普通である。「ハイキングとは、こんなの」と言いさりたいような絶好の山である。

帰りは、民宿の島居をくぐって、日本三大不動の山の一つという瓜切不動にお参りして来たい。民宿の扉を右へと下り、階段を下ったところに社がある。



金比羅山山頂にて  
といわれる樹が祀られているという社で、小さな山の中なのに、水がサラサラと流れる不思議な所である。

標高1000mの低山とは言え、絶景と名物があり、時間は調整できると思うが、それでもまだまだ時間が余って仕方ない方やお子さん連れの方は、買置温泉側に買置マリランドがある。  
入り口わきの小プールにペンギンが泳ぐ、かわいい水族館である。  
「ハコスタイル」  
御座(15分) 瓜切不動の島居(30分) 金比羅山(20分) 瓜切不動の島居(10分) 瓜切不動(10分) 島居(15分) 御座  
△地形図▽2万5千1:25,000  
近鉄志摩線光船0:00-9(25) 3:14-7  
冬季ダイヤ 11/13/20  
①買置温泉御座・浜島行き(所要30分)  
8:40 9:40 10:40 11:40  
②御座温泉御座行き(所要30分)  
12:05 14:05 15:05 16:05  
17:03(最終)  
伊勢・志摩の山には、千代を越す山もあるが、大阪・京都から日帰りできて、しかも、伊勢志摩らしい山となれば、その数は限られて来るように思う。余りに御座が低すぎるかとは思ったが、冬の風苦しさ、気分転換ハイキングという事で、志摩半島の景光の金比羅山を紹介した。

高野山

女人道を歩く

中級コース(★★★)  
児嶋 弘幸

弘法大師空海が九世紀のはじめ、紀ノ川南側の海拔800mの台地に真言密教の聖地として開いた高野山は、その後の高野浄土信仰の広まりとともに、人々の参拝が盛んに行われるようになり、多くの参詣者を迎え入れてきた。そして参詣者がたどった高野山への道は高野七口と呼ばれる七つの道に集約されて山内に入った。大門口、龍神口、相の浦口、大滝口、大峰口、黒河川口、不動坂口の七口である。そして各入口には女性のための籠り堂(女人堂)が設けられ、10世紀にもおよぶ長い期間、女人禁制の山として山へ入れぬ女人達でにぎわいをみせた。女性たちは七口の何れから山内に入る事が許されず、女人道と呼ばれるそれらを結ぶ細く険しい道をたど

つて、遠くから奥の龍御廟を拜んだという。高野山の自然がもつとも透きつく秋が終ると、すぐに初霜が降り、石灯籠、鐘樓、御堂の屋根は白化粧をする。現世の汚濁を消し去るよう女衆白の雲におおわれた冬の高野山、女人道を歩くことによろ。

女人道

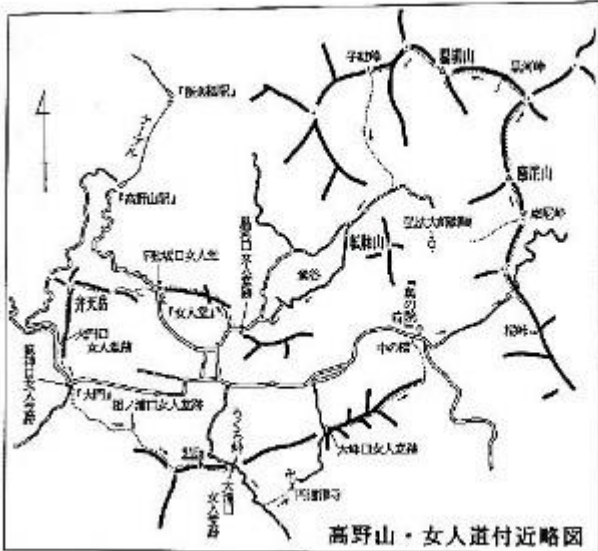
高野山山頂でバスに乗り換え、「女人堂」下車。かつてはそれぞれの入口にあった女人堂も、現在はここ不動坂口だけ。高野山の女人禁制は明治5年の天宮官布告によって解除されたが、これは改進黨に与えられた自由で、東洋には「女と七歳以下の子供は住めない」という山規が厳然と残っていた。このため女禁制も行われ、寺の炊事場には女性の入れ穴が割ってあったという。女性の山内登壇が認められたのは、30年以上もたった明治30年になってからのことだ。

不動坂口女人堂前の弁天岳登山口から取り付き、左回りに女人道を一巡することにしよう。「外の八葉の一枚、弁天岳には弁財天の祠が祀られ、妙音房という天狗が、常にこの祠を守護するという。北側足下に紀ノ川を、遠くには和泉山脈が望める。取上より南へ、弁



天岳登山を下る。弁天岳登山の中ほどには、高野山龍御廟からの表参道、大門口女人堂跡がある。すぐに、高野山大門が堂々とした姿を現わす。よく晴れた日には光る海の向こうに淡路島を遠望することができ、そのすぐ

先には弘法大師空海のあるさと四圍がある。四圍八十八ヶ所巡禮道を終えたお宿路さんが最後に高野山にお参りするよう、四圍と高野山は意外に近い。大門の同流りに龍神口女人堂跡もある。



高野山・女人道付近略図

南にとって助地蔵を右手に昇送り、山腹を回り込むと相の浦口女人堂跡に達し、龍神口と同じく行中からの登山道であるが、あまり利用されなかつたという。そのため時にあった地蔵堂を、女性の参詣に便利なように谷底にある龍神に移している。相の浦道の時に出て94mのピークに登る。高野山を形作る際に必ずといってよいほど引き合ひに出される八葉の連台、高野山の盆地そのものが一内の八葉、外の八葉という山々に囲まれ、運の合(うてき)を通過させるから、「紀伊同名所因縁」に描かれた風景

と、目の前に広がる高野三山の摩訶山、掃部山、龍神山をはじめ、高野山、弁天岳、の峰々とは一瞬にして真なり合って見えるところだ。朝もやの中に龍雲が浮かぶ美しさに驚嘆らしい。

小滝口と呼ばれる龍野三山への登山道、大滝口女人堂跡はすぐの所だ。山内の様子を見ながら古を長く眺めたので、ろくろ峠の名がある。しばらく大滝登山道を進み、分岐を左にとって白濁寺門前に出る。一般の人の立ち入りを禁じ、昔と変わらぬ厳しい修行を続けているという。さうく時には大峰口女人堂跡、五大尊堂跡がある。修験の山、大峰への道で、修験者がかよう道でもあった。支那僧達への道を通り、中の修験道修験手に飛び出る。

20万基とも言われる墓石がびっしりと並ぶ奥の院参道を左手に見送って、龍神への参道を進む。トンネル手前の小道から峠に取り付き、支那僧を伝って摩訶山に出る。傍らには弘法大師を祀る小祠と石の道標が建つ。高野六木とよばれる、マツ、スギ、ヒノキ、ツギ、モミ、マキの針葉樹がうっそうと茂る。摩訶山頂には龍御廟を安置した祠がある。摩訶山頂を後にすると北へ、前方に龍神山のひとまわり性的な山容が目の前に飛び込んでくる。右手には大峰登山道が遠望できる。

# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 叡電・京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 近鉄**
- ▽万歩ハイキング「百穂橋大・初詣ハイキング」 1月10日(日)集合 吉野線六田駅10時10分コース 六田駅・柳の渡し・志留川・船大・大神・草葎・上野原(約9.0) 会費無料 天王寺車庫06(624)0382
  - ▽近鉄ファミリーハイキング「伊勢初詣・社遊りコース」 1月10日(日)集合山陽伊勢市駅18時40分 口前広場10時10分30分コース 伊勢市駅・月夜姫古・外宮・藤田・藤神林・内宮・月夜姫・五十鈴川 駅(約10.0) 冬山服装費0593(54)7007
  - ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村
  - ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村
- 南海**
- ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村
- 京阪**
- ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村
- 阪急**
- ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村
- 神鉄**
- ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村
- 山陽電鉄**
- ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村
- 叡電・京福**
- ▽冬山登山「お山歩き・三陸山」 1月15日(祝)大阪難波駅前9時10分コース 橋原駅・奥平院前・少年遊歩村(山間きのぼ道) 一三陸山平・奥平院前・少年遊歩村・橋原駅(中継約10.0) アイゼンは必ず持参(今回は池元の方が案内します) 会費無料パス代2600円 小人1300円は別売 上木町車庫06(775)3566御代村

下り終えた後、黒河峠は大関秀吉が  
此で駆け下りたと書かれる黒河道で奈良への  
近道であった。ここからは十字路をまっすぐ  
直上、二山登高峠の檜柳山を巨峰す。15分ほ  
どの急登で、3等三角点、檜柳山山頂に登り  
待く。山頂には多分源吉を祀る小祠と、「盛尾  
山二十丁 曲輪山二十丁」の道標が立つ。  
急な降の道となり、少しの登りで右手に高  
池山を見送ると北斜面の展望が開け、右尾元



厚尾山から檜柳山への道

- △コースタイム▽  
南海高野線難波駅(特急電車1時間30分)  
高野山駅(バス10分)不動坂口女人堂(30分)  
弁天岳(約30分) 高野山大門(25分) 栴の浦女  
人堂跡(30分) 94.6ピーク(5分) 大滝  
口女人堂跡(30分) 口通津寺(約30分) みるく  
峠・大滝口女人堂跡(40分) 中の橋(40分)  
深尾峠(20分) 厚尾山(35分) 檜柳山(25分)  
子維(約30分) 黒河口女人堂跡(約30分) 不動  
坂口女人堂(バス10分) 高野山駅  
△地図参照 2万5千1号野山  
△問い合わせ先  
高野町営本郷光線  
0736(650)2931  
高野山観光協会中央案内所  
0736(650)2615  
南海高野線総合案内所  
06(643)1605

## 茶 通信販売

くつろぎとやすらぎのテイタイムには  
やっぱりお茶が ティバックが便利です。  
山へお持ちください。ご家庭でもどうぞ。

|           |    |        |      |      |
|-----------|----|--------|------|------|
| 1. 煎茶     | 3g | 全日100円 | 高野山茶 | 240円 |
| 2. ほうじ茶   | 3g | 240円   | 高野山茶 | 240円 |
| 3. 玄米茶    | 4g | 240円   | 高野山茶 | 240円 |
| 4. フローレン茶 | 4g | 240円   | 高野山茶 | 240円 |

●煎茶は1日1回お茶を飲むの目安です。  
●お茶は毎日飲むのが健康に良いです。  
●お茶は毎日飲むのが健康に良いです。

**茶 専門店**

TEL: 0736-291111 FAX: 0736-291111



▽文学散歩「暗礁」余尾山道の縁  
南生駒「尼ヶ辻」 2月21日開集  
今年新編南生駒駅前10時10分「コ  
ース」南生駒駅「御幸寺」桜木峠  
の大御堂「遠分の本陣跡と梅林」  
山ノ上の常夜燈「陸奥屋の地蔵堂」  
一五交山の湧泉「御幸寺」井「天皇  
陵」尼ヶ辻駅（約10分）会費20  
0円、講師四天王寺国際仏教大学  
教授安井 司氏、上末町事業06  
(775) 3566

▽テレメイトセンター主催ハイキ  
ング「霧氷の雪見山」 2月21日  
開集 詳細は2月7日刊に可也  
▽冬の霧氷雪見山ハイキング「霧城  
高層水ハイキング」 2月21日  
開集 高層水登山口「ロープウェイ」  
駅前10時40分「コース」霧城登山  
口「ロープウェイ」駅前「吊橋下」  
「自然研究館」山頂「雪見」一行  
者の旅「霧氷の海」高層水登山口  
「ロープウェイ」駅前（約8分）  
会費無料、天王寺事業06（62  
4）03382

▽近鉄ファミリーハイキング「栗

南海

▽1月・2月はハイキングの寒流  
計画はありません

神戸電鉄

▽神戸ハイキング「イヤガ谷霊  
魂と新水山ハイイク」 1月10日開  
集 伊豆山麓霊魂10時30分「コース」  
西輪岡台駅「君影町」イヤガ谷東  
尾根「綿越」新水山「鈴岡台駅」  
（約9分）一般回 神戸観光事業部  
078（521）9321

▽神戸ハイキング「大室八幡電  
灯とどり鳥ハイイク」 1月17日開  
集 大室比叡10時20分「コース」  
大室比叡駅「八幡神社」慈眼寺「弁  
慶の足跡」上の丸公園「大宮八幡  
宮（鬼ぞり）」三木下の丸駅（約  
9分）一般回 神戸観光事業部07  
8（521）0321

▽神戸ハイキング「遠藤谷山と有  
馬温泉ハイイク」 2月11日開  
集 遠藤谷山ハイイク 2月11日開  
集 大谷馬口駅10時15分「コース」  
有馬口駅「遠藤谷山」有馬温泉

本郷キャンペーン「橋本・横山の  
高層水ハイイク」 2月28日開集  
高層水ハイイク 11時15分30分  
「コース」橋本駅「横山」橋本  
台「横山第2展望台」芝生広場  
「鶴方駅（中継駅）」4分「会費無料」  
名古屋事業0593（54）70  
07

▽伊勢参宮本街道シリーズ「重原  
橋」青野西口 2月28日開集  
大阪線室生口大野駅前9時20分  
「コース」室生口大野駅「血染橋」  
「黒岩」山内町「渡取」白鷺橋  
「荷明神」橋本「宮野西口」橋本駅  
（開路約14分）小雨決行※3月  
14日開にも同じ催物を実施します  
会費無料（初参加の方は300円）  
定員500名（電話申し込み制）開  
路日の3ヶ月前から受付、上末町  
事業06（775）3566

▽朝日自然教室「巨勢の追分」重  
原峠 1月28日開集 近鉄吉  
野口駅9時50分「コース」近鉄吉  
野口駅「山阪」車坂神「車坂牧場」  
大野安井神社「海神駅（約6分）」  
会費200円、講師奈良植物研究

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「ひよどり森林  
公園ハイイク」 1月24日開集 西  
代駅（本社前）10時「コース」西  
代駅「高取山」丸山「ひよどり森  
林公園」神林橋駅（約9分）一級  
向「山陽電鉄ハイキング係078  
（941）6915

▽山陽ハイキング「揖保山・鬼お  
どりハイイク」 2月11日開集 橋  
北公園11時「コース」山陽姫路駅  
「姫路駅前」三軒神社「姫路寺」  
白岡「姫路駅前」姫路駅（約7分）  
一般回 山陽電鉄ハイキング係0  
78（941）6915

▽山陽ハイキング「高取山・イヤ  
ガ谷温泉ハイイク」 2月28日開  
集 高取山ハイイク 10時「コース」  
高取山「丸山」イヤ  
ガ谷温泉「君影」神林橋駅  
（約11分）一般回 山陽電鉄ハイキ

奈良交通

▽奈良の大和路を歩く会「かえり  
見」藤白坂越え 1月17日開  
集 奈良近鉄天理駅または大阪橋田中  
央駅西側西側午前7時「コース」  
天理または藤田（バス）藤白神社  
「有間皇子墓」歌碑「藤白坂」神  
の加茂神社（旧藤野街道）「橋  
本（バス）」JR和歌山駅・天理ま  
たは藤田（約5分）講師和泉孝  
男・武庫川女大教授、会費6  
500円（会費5800円）バス  
ツアー&ハイイク

▽万葉の大和路を歩く会「みけつ  
國」長門をめぐく 2月28日開  
集 大室大室比叡田「史跡西側西側前  
3時「コース」梅田「須磨港」大  
須磨「長門の浦」伊佐野神社「大  
門」大和路記念館「園分寺」志仁天  
皇陵「藤野松原」志氣港「須磨港

会費高層水川貞之氏、天王寺事業0  
6（521）03382

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

近畿

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

近畿

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

海公園（撮影）主歩北へ3分  
9時30分「山見10時」コース「深  
田池公園」白鳥美湯「虎神山新  
道」五助台「上津山」打越寺  
「徳池」風吹寺「森林管理道」八幡  
谷「八幡宮」同公園（約12分）中  
級回 参加費由、阪急山の係06  
（373）5326

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

近畿

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません

近畿

▽1月・2月はハイキングの実施  
計画はありません





山行計画

第444イングリブ編

このページの山行計画には、「合日に限ること」と表記してあるほかは、会費外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように入力して申し込みください。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代等を添付していただきます。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで後に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例年の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発前の晩家に保険料(白黒)と、夜行日曜日の場合(白黒)になり1000円を支出して頂きます。(ハ100円保険会社と契約)

極悪な悪天候時約四割は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
 入院保険金 50000円  
 通院保険金 20000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。

①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することをお勧めした山行、②スキー使用の山行、③岩・氷登はんを目的とした山行、④自治会等内の事故(詳細は係まで)

記入例

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 〇〇〇〇山(二股向き)

期日 2月11日(日)日曜日

住所 〒100-0000 東京都千代田区千代田

電話番号 〇〇〇〇〇〇〇

氏名 〇〇〇 〇〇〇

会員番号 (空白でいいのは会員外と記入)

生年月日 〇〇/〇〇/〇〇

緊急時の連絡先 〇〇〇-〇〇〇〇〇〇

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

京都北山歩き  
 明哲社から水尾(二股向き)  
 期日 1月10日(日)日曜日  
 集合 京都駅山崎口のりば7時30分(8時00分発)  
 コース 京都駅→自衛隊→明哲社入口→米の堂→十雨木→水尾「松敷」→「忠」→津田川→京都駅「解散」17時

費用 約5000円(交通費・とり柄、抽子風呂代共)

地図 昭文社「47京都北山」

係 村田智俊(中西信行)

申込み 田大群10の10村田まで

期日 1月24日(日)日曜日  
 集合 地下鉄三軒茶屋駅札口9時  
 京都から「京都市駅」8時  
 美新快速線乗換、大塚駅8時30分発、先頭車両に乗車(各白キヤップは三)

六甲・摩耶山(二股向き)  
 期日 2月11日(日)日曜日  
 集合 北大路駅バスターミナル(京都地下鉄)8時50分(9時00分発)

コース 北大路駅→戸寺→江文峠→P476→峯谷峠→摩耶山→岩倉花園バス停「解散」

費用 約1000円(交通費)

地図 昭文社「47京都北山」

係 村田智俊(中西信行)

申込み 田大群10の10村田まで

期日 2月21日(日)日曜日  
 集合 出町柳駅7時30分(7時45分発)

コース 出町柳駅→坊村→御殿山→(西園寺)→武家ヶ岳→コナマン谷→中野→金馬峠→イン谷→比良駅→比良駅「解散」

費用 約1500円(交通費)

地図 昭文社「16比良山系」

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| 日本最高位の温泉<br>(2400m)<br>立山・空室温泉<br>みくろが池温泉<br>〒930 富山市五朝木広町<br>0764-4110434<br>0764-4110434 | ハイキングに、スキーに、志賀高原 石の湯ロウツ<br>〒2400 志賀高原<br>0269-1342431<br>0269-1342431<br>(12015 新沢2ビル)<br>03-3341-0211<br>03-3341-0211 | 黒姫山・妙高火打山・飯綱山登山・百名道ハイキング<br>大自然が楽しめる四季の詩<br>日曜連 しゃーれー黒姫<br>〒339-13<br>長野県上水内郡信濃町黒姫高原<br>0262-15513171 | 館内より日本カモンカ毎日20人以上の大観望の場、春は山菜、夏は山菜、秋は山菜、冬は山菜、あるよすいん 満山荘<br>〒382 長野県上高井郡<br>高井村山田牧場・奥山田温泉<br>0262-14212527 |
|--|--|---|--|

宮城まで購入のうら乗車して下さい)

コース 地下鉄三軒茶屋→新神戸駅→有馬川→市ヶ原→(池袋谷)→旗本山→アゴ二坂→抽谷峠→長峰山→坂急六甲駅「解散」

費用 約1000円(大阪駅まで交通費)

地図 昭文社「25六甲・旗本・有馬」

係 中西信行(村田智俊)

申込み 〒610-0011 大阪市寺田大群10の10村田まで

冬晴れを期待して六甲旗本山ののびた道を歩きます。雨天中止、小雨決行

文楽歴史散歩  
 高野山から信濃川(二股向き)  
 期日 1月31日(日)日曜日  
 集合 近鉄高野山駅9時  
 コース 高野山→十三峠→高野山→竹藪山→高野山→高野山→安山→高野山→近鉄信濃川駅→水

費用 約1500円(近鉄上本町駅まで交通費)

京都北山歩き16

観音船山(二股向き)  
 期日 2月11日(日)日曜日  
 集合 北大路駅バスターミナル(京都地下鉄)8時50分(9時00分発)

コース 北大路駅→戸寺→江文峠→P476→峯谷峠→摩耶山→岩倉花園バス停「解散」

費用 約1000円(交通費)

地図 昭文社「47京都北山」

係 村田智俊(中西信行)

申込み 田大群10の10村田まで

期日 2月21日(日)日曜日  
 集合 出町柳駅7時30分(7時45分発)

コース 出町柳駅→坊村→御殿山→(西園寺)→武家ヶ岳→コナマン谷→中野→金馬峠→イン谷→比良駅→比良駅「解散」

費用 約1500円(交通費)

地図 昭文社「16比良山系」

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| あなたのふる里になりたい<br>スキー場まで歩いて1分<br>白馬ファミリーペンション<br>〒399-93 長野県北安曇郡<br>白馬村八幡野<br>0266-117215351 | ハケ岳西北麓の中心地<br>50年秋の増築完成全館個室<br>木の香が匂う新築温泉旅館<br>オーレン 小屋<br>1台2食付き 4500円<br>〒391-02 4月未・11月末開設<br>茅野市豊平2720 小平 勇<br>0266-17211279 | 日本唯一の女人谷の山(六甲山)<br>白糸山「登山」の登山口<br>沼津・岳女人コースもあり<br>温泉・名水の里<br>旅館 紀の国屋 八<br>1泊2食付 7000円から<br>〒633-0104 7<br>奈良県吉野郡天川村河川<br>0747-61410309 | 九州の最高峰・日本百名山<br>宮の道に一番近い宿<br>霧久屋温泉 山口<br>ホテル 辺 荘<br>〒891-43 屋久島港からバス10分<br>鹿児島県鹿嶋市久野温泉<br>0999741613021 |
|--|---|--|---|

